

第 1 グループ【街づくり分野】

街づくり分野

みなとタウンフォーラム
第1グループ

第1グループ[メンバー]

青山 潤	大住 美佐子	越智 杏花
北野 健二	幸田 千栄子	古知屋 理絵
鈴木 恵太	鈴木 凜太郎	スラッターリー 俊子
前田 友紀		

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第1グループ【街づくり分野】

私たち第1グループでは、街づくりについて「良好な居住環境の整備」、「誰もが住みやすい街づくり」、「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」の3つのテーマを設定し、議論を重ねてきました。

今後、日本全体では少子高齢化が加速し、人口減少に拍車がかかっていきますが、一方、港区では再開発等を背景に人口が増加していくことが予想されます。都市機能の集積が更に進み、日本経済を支える都市として発展を続ける一方で、安全性や利便性など、区民の暮らしを取り巻く環境も変化していくことが考えられます。

また、コロナ禍を経て、IT技術が人々の生活をより良いものへと変革するDXが進む中で、コミュニケーションの在り方が変化するなど、私たちの暮らし方や価値観そのものが抜本的に変わろうとしています。

こうした社会情勢を踏まえながら、3つのテーマを切り口に議論を進めてきました。

「良好な居住環境の整備」の観点では、安心して暮らすために様々な危機への備えを進めるとともに、まちを美しく保つことや、地域の中でオフィスや商業施設、住宅などがそれぞれバランスよく存在し、つながりを確保すること、街づくりの情報へのアクセスなどについての施策を検討しました。

「誰もが住みやすい街づくり」の観点では、何らかのハンディキャップを抱える人や、子育て世代の人などにとって住みづらいつと感じるポイントがあるのではないかと考え、そのような人たちがより住みやすくなるための施

策を検討しました。

「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」の観点では、地域をつなぐ道の整備や、憩いの場である公園や古川・運河などの水辺の環境整備、地域特性を生かした景観づくりなどについての施策を検討しました。

議論を進める中で、港区の街づくりに関する施策は多岐にわたり、手厚く実施されているということを改めて認識しました。しかしながら、多くの区民が区取組を知らず、街づくりを理解していないものと思われま

す。街づくり分野全体に対する提言になりますが、より良い街づくりのためには地域を巻き込んで進めることが重要であり、区民自身が街づくりに関する様々な情報を広く学ぶように努力していく必要があります。そのため、区に対し、区民に丁寧に情報を届け、区民が意見を伝えることができる機会をこれまで以上に充実し、区民と一緒に街づくりを進めていくことを求めます。区は街づくり分野の様々な情報発信に公式SNSを用いていますが、インフルエンサーを活用するなど工夫を凝らした取組を行い、さらに区の施策の“拡散”を求めます。

街づくり分野は非常に専門性の高い分野ですが、みなとタウンフォーラムでは、私たちが港区で暮らす日常において、特に関心を持ったポイントや論点について議論を進め、提言として取りまとめました。

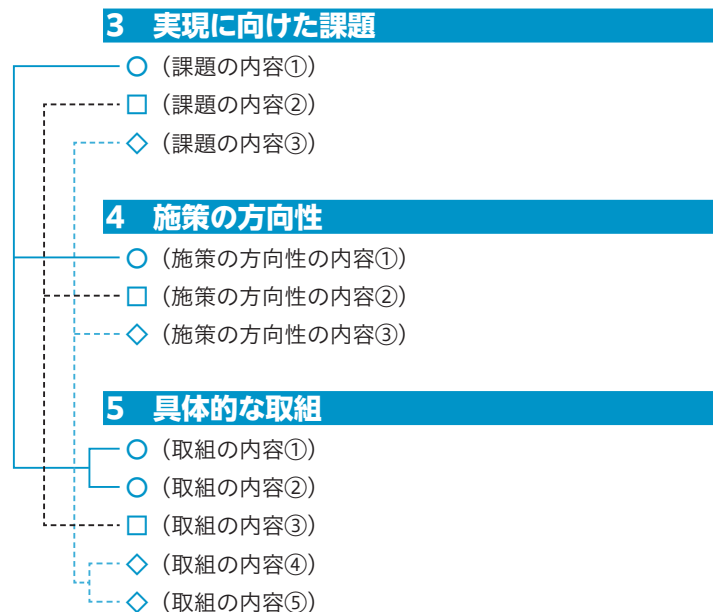
この提言が街づくり分野の施策に活かされることで、港区がより良い街となっていくことを願っています。

提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 良好な居住環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災に関する情報の可視化 ● 有事への対策の検討 ● まちの美化の推進 ● バランスと調和の取れた住環境の形成 ● 情報発信の強化と意思疎通の場づくり
【テーマ2】 誰もが住みやすい街づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーな環境整備 ● 子育てを支える環境整備 ● 「心のバリアフリー」の推進 ● 情報発信の仕組みづくり
【テーマ3】 魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり	<ul style="list-style-type: none"> ● 自在に移動できる環境整備 ● 街並みの保全と魅力ある景観の創出 ● 誰もがリラックスし、憩える公園整備 ● 古川や運河の水質改善とにぎわい創出

提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



良好な居住環境の整備

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「安全・安心な環境の中で、地域の人々が相互につながり豊かに暮らすことができる、住環境バランスが整った世界に誇れるまち」

良好な居住環境を形成するため、治安が良く、災害などの危機に対し備えが万全であること。また、区民同士や区民と行政とが意思疎通を図りながら充実したサービスを楽しむことができること。さらに、オフィス街や商業エリア、住宅地がつながりバランスが整った、世界に誇れるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

災害や戦争の脅威

- 地震などの災害はいつ発生するか分からず、新型コロナウイルスのように予測困難な危機が起こる可能性がある。
- ロシア連邦によるウクライナ侵攻や東アジア情勢の変化により、日本にも影響が及ぶ可能性がある。

人口構造の変化

- 日本全体の人口が減少する一方で、港区は開発などにより居住する人口が増加していく。
- 港区に居住する住民の年齢構成は高齢人口（65歳以上）や年少人口（0～14歳）が増加すると見込まれている。一方で、DINKsのような方々もいることから、価値観はますます多様化していくと思われる。
- 外国人を含む、港区で働く人が増え、昼間人口の増加が見込まれる。

都市機能の集積

- 都市の再開発や環状第4号線の整備などによって街づくりが進み、都市機能の集積が更に進展する。

3 実現に向けた課題

○様々な危機への備えの強化

- 災害が発生した際、区民は「自分がどうしたらいいか、どこへ避難すればよいか」など、防災に関する知識や理解が不足している。
- 緊張が高まる世界情勢において、武力攻撃があった場合の備えが不十分である。

○まちの美観向上

- まちを美しく保つことで結果として治安が良くなることから、新橋や六本木などの繁華街独自の良さも残しながら、まちの美化に努めることが必要である。
- 空き家が放置されると、景観上の問題やごみ等による衛生問題があり、周囲に悪影響を及ぼすので、対策が必要である。

□地域間のバランス確保と分断解消

- 港区の特長である集積するオフィス機能や住宅機能のバランスを図っていく必要がある。
- 再開発が進んでいく中で、再開発エリアと町会など既存の地域が分断することなく共存し、調和させていく必要がある。

◇住民同士や行政との意思疎通の円滑化

- 助けを必要としている区民と協力したい区民同士がマッチングし、地域で互いに助け合い、協力し合う関係性を築いていく必要がある。
- まちに愛着を持てるように、住民や港区を訪れる人が区に関する情報を看板などのサインから日常的に取得し理解でき、また、住民から発信できるようにする必要がある。

4 施策の方向性

○安全・安心できれいな街づくり

- 危機が生じた際の安全を確保して住む人に安心感をもたらすとともに、まちを清潔で美しくすることで治安の向上を図る。

□バランスと調和の取れた街づくり

- オフィス街や商業エリア、住宅地などをバランス良く配置できるように誘導し、調和した住みやすい街づくりを促進する。
- 地域同士がつながり、全体として調和した街づくりを推進する。

◇住民相互や行政との情報共有の推進

- 街づくりに関する情報が区民に届くとともに、区民の思いや考えを行政や開発事業者などが受け取ることができ、住民同士や住民と行政がつながるような情報共有の取組を推進する。

5 具体的な取組

○防災に関する情報の可視化

- 区民が防災に関する知識や情報を日々の生活の中で入手できるように防災情報を発信し、見える化を進める。
- 新型コロナウイルス感染症への対応をモニュメントや資料館、データベースで残すなど、過去の取組を風化させないための周知を行う。

○有事への対策の検討

- 武力攻撃等に備え、緊急一時避難施設が区内においても指定されているように、街づくりにおいても有事に対する備えの視点を取り入れることを検討する。

○まちの美化の推進

- 住民や事業者が協力したまちの清掃活動の実施や美化の推進、空き家等の管理不全状態の改善など、きれいな街づくりに取り組む。

□バランスと調和の取れた住環境の形成

- 開発区域内におけるオフィス・ビジネス機能と住宅機能との調和を図り、公園や広場、休憩スペースの設置など、住環境向上に向けた取組を開発事業者に対して指導する。
- 地域やエリア間を結ぶ散歩道を整備するとともに、散歩マップを掲出するなど歩きたくなる仕掛けを行い、住民の活動範囲を広げることで地域間のつながりを創出する。

◇情報発信の強化と意思疎通の場づくり

- 街づくりに関する情報がこれまで以上に区民にいち早く伝わるように、紙媒体やウェブの活用など、様々な方法を駆使して発信するとともに、区民誰もが質問や議論をできるような場をつくるなど、意思疎通を行う機会を充実させる。
- 区内の民間保有を含めたデジタルサイネージや二次元コードを活用するなど、住民だけでなく来街者に対しても、街づくりを知ってもらう機会を増やすとともに、再開発中のエリアにおいても、新たな街づくりに関する情報発信を行うよう働きかける。

6 参画と協働の推進

○美化活動への参加

- 地元住民や事業者などがまちの美化や清掃等のボランティア活動に参加する。

○情報発信の協力

- 新たな情報をWebマップなどに追加・更新できるように、日頃からアイデアを収集し、作成に携わるなど、区民が積極的に情報発信に協力する。

◇街づくりへの参加

- 住民が「港区をより良くするために何ができるか」を考え、街づくりに積極的に関わっていく。

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

誰もが住みやすい街づくり

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「他者への思いやりにあふれ、誰もが住みやすさを感じるまち」

ハンディキャップを抱えた人や子育て世代など全ての人が安心して暮らすことができ、他者への思いやりを持ち、お互いを受け入れるような、みんなの笑顔で和らぎ、明るい気持ちになれる優しいまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

人口構造の変化

- 日本全体の人口が減少する一方で、港区は再開発などにより居住する人口が増加していく。
- 港区に居住する住民の年齢構成は高齢人口（65歳以上）や年少人口（0～14歳）が増加すると見込まれている。一方でDINKsのような方々もいることから、価値観はますます多様化していくと思われる。
- 港区で働く人や外国人などが増え、昼間人口の増加が見込まれる。

IT化・DXの加速

- IT化やDXが一層進展し、それに伴いコミュニケーションの在り方が変化し、コミュニティも変わっていくことが想定される。
- 国が目指す「Society5.0」を背景に、情報の伝達や双方向の情報のやり取りなどの技術がより一層発達する。

3 実現に向けた課題

○ハンディキャップを抱えた人への配慮

- ハンディキャップを抱えた人に対する周りの人の配慮が十分でない。
- ハンディキャップを抱えた人が不自由なく移動できるための情報が不足していて、その支援のためデジタル技術が十分に活用されていない。
- ハンディキャップを抱えた人に係る基本的な知識や支援方法などに関する区民の理解が不足しており、どういったことで困っているかの把握が十分でない。

□子育て世代の住みづらさの解消

- 飲食店のトイレが狭くて子どものおむつ替えができないことや、ベビーカーではバスの乗車が難しいこと、子育てする人が気軽に休めるスポットが少ないことなど、子育て世代が安心して暮らせる環境が整っていない。
- ちいばすの無料乗車券が妊産婦や所得基準額内の子育て世帯にしか発行されないなど、子育て世代への支援が不十分である。

◇「心のバリアフリー」の浸透

- ベビーカーでバスに乗る際に邪魔に思う乗客がいるなど、子ども連れの家族は周りの目を気にしなければならず、負担になっている。
- ハンディキャップを抱えた人や子育て世代などに対して周囲の理解が不十分であり、お互いが気持ちを分かり合えるようにする必要がある。

◎必要な人に届く情報発信

- 図書館や児童館などで興味のあるイベントのチラシを見つけても既に終了していることが多く、子育て世代が必要なタイミングで情報を手に入れられないことがある。
- 困りごとを抱える区民が意見や要望を伝えられる機会が不足している。
- 港区バリアフリー基本構想など、誰もが住みやすい街づくりに関する区の実践や方向性が知られていない。

4 施策の方向性

○ハンディキャップを感じさせない安心して暮らせる街づくり

- ハンディキャップを抱えた人が快適に暮らせるように、デジタル技術を活用しながら安心して暮らせる環境整備を推進する。

□子育て世代の暮らしを支える街づくり

- 子育てをする中で区民が感じている課題を把握しながら、子育て世代が暮らしやすいような環境整備を推進する。

◇「心のバリアフリー」の推進

- ハンディキャップの有無に関わらず、様々な人がお互いを理解し、支え合えるように、「心のバリアフリー」を普及するための取組を推進する。

◎区民が主体的に情報発信できる機会の創出

- 必要な人に必要な情報が伝わるように、区民同士が情報を共有し合い、主体的に情報発信できるような環境整備を促進する。

5 具体的な取組

○バリアフリーな環境整備

- 車いすや足の不自由な人などが安心して移動できるように、ペDESTリアンデッキ（高架型の歩道）や地下鉄駅の通路などの整備・改善を促進する。
- 駅に併設する施設などにおいて、利用可能時間を延長して利用者の利便性を確保し、また、エレベーターの設置を促進する。
- 駅構内の点字ブロックに設置した二次元コードを読み取ることで道案内を行うアプリや、車いすユーザーの移動情報を基にみんなでバリアフリーマップを制作するアプリなど、デジタル技術を用いた先進的な取組を街づくりに活用する。
- 子育てをしている親子や高齢者などが移動・散歩中に徒歩10分圏内で休憩できる場所を確保する。

□子育てを支える環境整備

- おむつ替えなどを安心してできることが分かるステッカーを掲出するなど、子育てを支える環境整備を促進する。
- 港区に住む人が、子どもが生まれて家族構成が変わった場合でも住み続けられるように、家族で住める間取りの住居の整備を促す。

◇「心のバリアフリー」の推進

- 「心のバリアフリー」に関するハンドブックの活用や、子育てを温かく見守る「泣いてもいいよ」ステッカーの配布など、学校や企業、区民向けに啓発活動を行い、「心のバリアフリー」の実践につなげていく。
- 駐車禁止の取り締まりを行う人が巡回しているように、困ったことがあった際に聞くことができ、助けてくれる環境をつくる。

◎情報発信の仕組みづくり

- 地域の人がオンラインのマップ上で、直してほしい道路の箇所や安全に歩くことができるルートなど、様々な情報をアップロードしていけるような、区民主体の情報発信の手法を検討する。
- 同じような問題意識を持った人同士が集まり、意見を交わすことができるラボなど、地域の人がコミュニケーションを取り、情報の発信につながる場の整備を促進する。

6 参画と協働の推進

○□思いやりのある声掛けの実践

- 日頃から意識をしながら、困っている人がいたら積極的に声をかけて、必要なサポートを実践する。

○□サポーターやボランティアとして支援

- 手助けを必要とする人について理解し、サポーターやボランティアとして積極的に支援を行う。
- 港区バリアフリー基本構想推進協議会のまち歩き点検に参加し、地域のバリアフリー化が必要な箇所を点検する。

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「交通の壁や地区の枠を超えて人々が往来し、港区の特色ある美しい景観を楽しみ、緑や水辺に囲まれる中で、やすらぎながら暮らせるまち」

鉄道の線路による東西の分断や、地区を越えた移動のしづらさが解消され、各地域間がつながり、歴史ある建物やランドマークなど港区の特色ある美しい景観を楽しみ、公園や運河沿いなどの憩いの空間でやすらぎを感じられるまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

街づくりの進展

- ・再開発や道路の開通など新たな街づくりが進み、景観や街並みなど区民の生活環境が変化していく。

地球環境の変化

- ・地球温暖化など、地球環境の変化が進むことで、人々の暮らしへの悪影響が懸念される。

3 実現に向けた課題

○地域間の分断の解消

- ・線路や道路によって分断されている地域があることや、区内の各地区をつなぐ公共交通機関や歩道のネットワークが十分でないため、地域間を移動しづらく、つながりの確保が必要である。
- ・歴史的な建物や水辺、商業エリアなどの魅力をつなげ、人の移動を促す工夫や取組が不足している。
- ・歩道の街路樹や植栽が途切れる箇所があり、連続性をもたせる必要がある。

□住民の景観に対する理解の促進

- ・港区景観計画など、区の景観に関する制度や事業があるが、その存在や内容が区民に届いていない。
- ・歴史や運河など、区内の魅力ある特色を生かしきれておらず、景観からやすらぎや愛着を感じづらくなっている。
- ・街づくりに際して利便性や効率性が意識されてきた結果、古くからの街並みや自然が継承されていない。
- ・空き家や電柱・電線、信号機の架線によって地域の景観が損なわれている。

◇公園のにぎわいづくりと適切な利用の促進

- 公園でイベントが開催される機会が少なく、人々が集まって楽しめるような活用がされていない。
- イベントが実施されていたとしても告知が不十分で区民に情報が届いていない。
- 公園内での喫煙などマナー違反が見受けられ、利用者一人ひとりの意識を向上し、適切な利用を促進する必要がある。

◎古川や運河の親水化

- 古川や運河の水質が悪く、水辺空間を楽しめる環境も不足しており、良好な環境とは言い難い。

4 施策の方向性

○地域をつなぐ街づくり

- 人々が区内に点在している魅力的なスポットを楽しみ、交流し、まちがにぎわうよう、地域同士のつながりを創出するための取組を推進する。

□港区ならではの景観が楽しめる街づくり

- 港区ならではの街並みを楽しみ、やすらぎや愛着を感じることができるよう、多様な地域特性を生かした景観づくりを推進する。

◇にぎわいとやすらぎをもたらす公園づくり

- 都心ならではの魅力あるイベントを開催するなど、公園からまちのにぎわいを生み出すとともに、公園利用のルールを啓発するなど、誰もが憩える公園環境を整備する。

◎きれいでにぎわう水辺づくり

- 古川や運河の水質改善や水辺の環境整備などを進め、きれいでにぎわう水辺をつくる。

5 具体的な取組

○自在に移動できる環境整備

- 運河沿いの魅力を満喫できる連続性のある遊歩道や、ペDESTリアンデッキ（高架型の歩道）の整備など、地域をつなぐ街づくりを推進する。
- ちいばすのルート改善や、都営バスなどとの乗り継ぎのしやすさを向上させ、区内5地区間を跨いだ移動ができるように公共交通機関のルートを検討し、地域住民の意見を取り入れ、港区内の移動の利便性を高める取組を推進する。
- MaaSの実装に向けた取組を一層推進し、地域間のシームレスな移動を実現する。
- 日陰を確保できる街路樹や植栽を増やし、緑でつながる歩行環境の整備を推進する。

□街並みの保全と魅力ある景観の創出

- 歴史ある建築物や神社仏閣など、古くから残る街並みを保全するとともに、新たな港区の魅力となる景観を創出する。
- 空き家等管理不全の状態を改善するなど、良好な景観を守るための取組を推進する。
- 過去に無電柱化を実施した信号機架線が残っている交差点も含めて、さらに無電柱化を推進する。
- 港区が目指す魅力ある景観等の将来像を共有し、区民の景観や街づくりに関する意識向上を図る。

◇誰もがリラックスし、憩える公園整備

- 屋外での映画上映など定期的にイベントを開催し、SNSなどを通じて広く発信することで、公園ににぎわいを生み出す。
- 都会の喧騒から離れ、デジタルデトックスができるような静かな環境を整備し、憩える空間を創出する。
- DIYに関するセミナーを開催するなど、区民が公園づくりに参画できるきっかけをつくる。
- 禁煙など、公園のルールや利用者のマナー改善に向けた呼びかけをする。

◎古川や運河の水質改善とにぎわい創出

- 古川や運河の水質改善を図り、きれいな水辺空間を実現する。
- レストランやマルシェ、プロジェクションマッピングなど、水辺沿いににぎわいを生み出す施設やイベントを誘致し、水辺の魅力や交流のきっかけを創出する。
- 水質のみならず、桜等の植栽による魅力ある空間づくりや水辺環境を生かした店舗を誘導するなど周囲の環境整備を促進することで、多くの人が訪れ、にぎわう水辺環境の構築を図る。

6 参画と協働の推進

○民間によるつながりのきっかけづくり

- 企業の施設・敷地をこれまで以上に一般向けに開放することで、行きたくなる空間を創出するよう促す。
- 地区を横断したくなるようなイベントが開催されるよう、企業と連携する。

□景観への取組や意識向上

- 寺社仏閣が開催する景観向上に資するような祭事やイベントに参加する。
- 区民は、良いと思った景観を積極的にSNSで発信、共有する。
- 区立小・中学校の生徒が景観を守るためにできることを考え、発信する。

◇公園の維持管理への参画

- 区民が植栽への水やりなど、維持管理の役割を担い、公園を身近な存在としていく。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月14日(金) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none">事務局紹介グループ会議の進め方について分野における現状と課題について検討テーマの選定リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月24日(月) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">テーマにおける現状と課題についてテーマ「良好な居住環境の整備」に関する意見交換
第3回	令和4年11月9日(水) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">テーマにおける現状と課題についてテーマ「誰もが住みやすい街づくり」に関する意見交換
第4回	令和4年11月18日(金) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">テーマにおける現状と課題についてテーマ「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する意見交換
第5回	令和4年12月5日(月) 18時30分～21時00分	<ul style="list-style-type: none">前回提言に関する取組状況についてこれまで議論したテーマの全体確認テーマ「良好な居住環境の整備」のブラッシュアップ
第6回	令和4年12月19日(月) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">テーマ「良好な居住環境の整備」の振り返りテーマ「誰もが住みやすい街づくり」のブラッシュアップ
第7回	令和5年1月16日(月) 18時30分～20時40分	<ul style="list-style-type: none">テーマ「誰もが住みやすい街づくり」の振り返りテーマ「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」のブラッシュアップ
第8回	令和5年1月30日(月) 18時30分～21時30分	<ul style="list-style-type: none">テーマ「良好な居住環境の整備」提言内容の確認テーマ「誰もが住みやすい街づくり」提言内容の確認テーマ「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」提言内容の確認

第1グループ

街づくり分野

- テーマ1 良好な居住環境の整備
- テーマ2 誰もが住みやすい街づくり
- テーマ3 魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり



みなとタウンフォーラム

令和5年3月23日

テーマ
01

良好な居住環境の整備

第1グループ
街づくり分野

将来像
FUTURE

安全・安心な環境の中で、地域の人が相互につながり豊かに暮らすことができる、住環境バランスが整った世界に誇れるまち



社会変化

- 災害や戦争の脅威
- 人口構造の変化
- 都市機能の集積

方向性

安全・安心で
きれいな街づくり

バランスと調和の取れた
街づくり

住民相互や行政との
情報共有の推進

取組



- 防災に関する情報の可視化
- 防災知識・情報を生活の中で入手できるように情報発信、見える化(ビルに掲載など)を進める。
- 有事への対策の検討
- まちの美化の推進
- 清掃活動の実施や空き家等の管理不全状態の改善など、きれいな街づくりに取り組む。

- バランスと調和の取れた住環境の形成
- 公園や広場、休憩スペース、お手洗いの設置など、住環境向上に向けた取組を開発事業者に対して指導する。
- 地域を結ぶ散歩道の整備、散歩マップの掲出などを通じて、地域間のつながりを創出する。

- 情報発信の強化と意思疎通の場づくり
- 街づくりに関する情報を様々な方法を駆使して発信する。
- デジタルサイネージや二次元コードを活用し、街づくりを知ってもらう機会を増やす。

参画と協働



- 地元住民や事業者などがまちの美化や清掃等のボランティア活動に参加する。
- 新たな情報をWebマップなどに追加・更新できるように携わるなど、区民が積極的に情報発信に協力する。
- 住民が「港区をより良くするために何が出来るか」を考え、街づくりに積極的に関わっていく。

将来像 FUTURE	他者への思いやりにあふれ、誰もが住みやすさを感じるまち			社会変化	○人口構造の変化 ○IT化・DXの加速	
方向性	ハンディキャップを感じさせない安心して暮らせる街づくり	子育て世代の暮らしを支える街づくり	「心のバリアフリー」の推進	区民が主体的に情報発信できる機会の創出		
取組	<ul style="list-style-type: none"> ● バリアフリーな環境整備 ● 車いす等の人が安心して移動できるペDESTリアンデッキ等の整備・改善 ● 駅に併設する施設などでエレベーター設置促進 ● 移動中に徒歩10分圏内で休憩できる場所の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てを支える環境整備 ● おむつ替えできることを示すステッカー掲出など、子育てを支える環境整備 ● 港区で住み続けられるように、家族で住める間取りの住居を整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「心のバリアフリー」の推進 ● ハンドブックの活用など、学校や企業、区民向けに啓発活動を実施 ● 困ったことがあった際に聞くことができ、助けてくれる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報発信の仕組みづくり ● 情報をアップロードしていただけるような、区民主体の情報発信の手法を検討 ● 同じ問題意識を持った人同士が集まり、情報発信につながる場の整備を促進（ラボなど） 		
参画と協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 日頃から意識をしながら、困っている人がいたら積極的に声をかけて、必要なサポートを実践する。 ● 手助けを必要とする人について理解し、サポーターやボランティアとして積極的に支援を行う。 ● 港区バリアフリー基本構想推進協議会のまち歩き点検に参加し、地域のバリアフリー化が必要な箇所を点検する。 					

将来像 FUTURE	交通の壁や地区の枠を超えて人々が往来し、港区の特色ある美しい景観を楽しみ、緑や水辺に囲まれる中で、やすらぎながら暮らせるまち			社会変化	○街づくりの進展 ○地球環境の変化	
方向性	地域をつなぐ街づくり	港区ならではの景観が楽しめる街づくり	にぎわいとやすらぎをもたらす公園整備	きれいでにぎわう水辺づくり		
取組	<ul style="list-style-type: none"> ● 自在に移動できる環境整備 ● 遊歩道の整備など、地域をつなぐ街づくりを推進 ● ちいばすのルート改善や乗り継ぎの向上など、5地区間移動の利便性向上 ● MaaSを一層推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 街並みの保全と魅力ある景観の創出 ● 新たな区の魅力となる景観の創出 ● 良好な景観を守るための取組推進 ● 無電柱化の推進 ● 景観の意識向上 	<ul style="list-style-type: none"> ● 誰もがリラックスし、憩える公園整備 ● イベントを開催し、公園ににぎわい創出 ● 静かで憩える空間を創出 ● 区民が公園づくりに参画するきっかけづくり(マイ植樹など) ● 利用者のマナー改善 	<ul style="list-style-type: none"> ● 古川や運河の水質改善とにぎわい創出 ● 水質改善を図り、きれいな水辺空間を実現 ● 水辺沿いににぎわいを生む施設やイベント誘致 ● 多くの人が訪れ、にぎわう水辺環境の構築(桜の植林など) 		
参画と協働	<ul style="list-style-type: none"> ● 企業の施設・敷地をこれまで以上に一般向けに開放することで、行きたくなる空間を創出するよう促す。 ● 地区を横断したくなるようなイベントが開催されるよう、企業と連携する。 					

まとめ

最後に区への要望として、より良い街づくりのために
区民に丁寧に情報を届け、区民が意見を伝えることができる機会を
これまで以上に充実し、区民と一緒に街づくりを進めていくことを求めます。

区民は区の実施することに関心を持つ責任を自覚し、
区は「実施するためにはどうするか」の視点で検討いただきたい。

街づくり分野は非常に専門性の高い分野ですが、
みなとタウンフォーラムでは、私たちが港区で暮らす日常において、
特に関心を持ったポイントや論点について議論を進め、提言として取りまとめました。

この提言が街づくり分野の施策に生かされることで、
港区がより良い街となっていくことを願っています。



会議録

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月14日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：10名（欠席無し）

事務局：対応部門関係課長6名（建築課長、開発指導課長、再開発担当課長、品川駅周辺街づくり担当課長、土木課長、地域交通課長）

企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者3名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 検討テーマの選定
- 5 リーダー、サブリーダーの選出
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3-2	提言の取りまとめイメージ
3-3	前回みなとタウンフォーラム提言書
4	検討希望テーマ集計結果
5	リーダー、サブリーダーの役割について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第1回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、配布資料1に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

○検討スケジュール

事務局より、配布資料2に基づき、活動日程や内容について説明を行った。

○提言の構成

事務局より、配布資料3、3-2、3-3に基づき、提言の構成について説明を行った。

3 分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画に基づき、街づくりに関連する施策や取組について概要の説明を行った。

4 検討テーマの選定

事務局より、配布資料4に基づき、参加者へ事前に調査した検討希望テーマの集計結果について説明を行った。集計結果としては、多い順に、「良好な居住環境の整備」、「魅力ある街並み景観の形成」、「公園・緑・水辺」、「バリアフリーのまちづくり」、「その他」、「交通まちづくり」となった。

集計結果を踏まえて、検討テーマについて議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：港区には魅力あるまちと景観がある。港区に住んでいる人を引き留めるために、より一層魅力あるまちにしたい。

参加者：古川が理想とする姿になれば、凄い変化となる。公園についても検討したいと思う。

参加者：居住環境というと、景観やバリアフリーも含むイメージがある。検討する際は、自分の建物だけではなく、周りのことも全部含めての議論になると思う。

参加者：空き家や老朽化した建物は、開発によって無くなり、まちがきれいになる。公園を含めた再開発により、緑が増え、まちがバリューアップすると思う。

参加者：港区には運河があり景観的にも特徴があるが、あまり生かされていない。親水空間となるように環境を良くしたい。ライトアップされ、散歩できるような水辺空間があるとよい。

参加者：今ある港区をより良くしたい。大きな地震があった際、港区に住んでいることで生き残れるとなれば、それだけでバリューアップになると思う。

参加者：港区ならではの視点で考えたときに、街並み景観が実現しやすいと思った。

参加者：バリアフリーの対象は必ずしも障害者だけでなく、初めて港区に来た人や外国人が、まちを歩いていて迷ってしまうことも、一種のバリアである。訪れやすいまち、自分自身でまちを行き来できるまちになると良い。

参加者：品川・高輪ゲートウェイの大規模な再開発に対して、住民の声が入り、住民が関われる場づくりができれば、もっと楽しくなるのではないか。このような場を、新しい再開発の駅

近につくりたい。

参加者：港区は、緑の環境が唯一弱いのでは。子どもが古川を見て落胆した。古川が変わると港区の印象も大きく変わると思う。有栖川公園の水も汚く、水辺環境がより綺麗に整備されると、住環境の良さにつながると思う。

参加者：みなとタウンフォーラムのゴールを確認したい。提言するのは、特定の施設や場所の具体的な内容についてか。それとも、区全体に対することか。

事務局：港区基本計画は区の最上位計画であるため、個別の検討ではなく、区全体に係る検討を行っていただきたい。

参加者：区全体で考えた結果、古川を綺麗にするなど具体的な提言をしても良いのか。

事務局：例えば、親水空間の環境向上のために水辺のライトアップを提言し、具体的には古川をライトアップして親水空間を良くすることを例示していただくことはできる。

事務局：資料3-2がアウトプットとして目指すものになる。港区のありたい理想の姿から始まり、施策の方向性や具体的な取組が決まるように議論を進めていただく。

参加者：「魅力ある街並み景観の形成」と「公園・緑・水辺」のテーマは通ずるものがあるため、統合することはできるか。

事務局：統合することもできる。必ずしも資料3-2のテーマから選ぶ必要はなく、皆さんの議論で決めていただき問題ない。

参加者：居住環境として、オフィス街や商業地域における環境整備も必要だと思う。これらはどのテーマに含めればよいか。

事務局：居住環境を切り口とし、オフィス街や商業地域に絞って議論することもできると考える。

参加者：「その他」の内容を「良好な居住環境の整備」のテーマに含めてほしい。

参加者：「良好な居住環境の整備」のテーマは要素が多いため、分解しないと進まないと思う。

参加者：「良好な居住環境の整備」のテーマの中に「バリアフリー」も含まれてくる。

参加者：「交通環境」も含まれるのではないか。

事務局：話を整理すると、「良好な居住環境の整備」で1テーマ、「魅力ある街並み景観の形成」と「公園・緑・水辺」で1テーマとする。「良好な居住環境の整備」は要素が多いため、2つのテーマに分けることはできる。

参加者：北青山の都営住宅のように、区の施設を再開発に取り入れる事例があるので、「良好な居住環境の整備」と「その他」は統合できると思う。古いものを新しくするという意味であれば、難しいことではないと思う。

参加者：「その他」と「バリアフリーのまちづくり」は、「良好な居住環境の整備」のプラスの部分だと思う。プラスの部分を議論の枠組みとして棲み分けをすると整理ができると思う。

事務局：「今あるものを新しくする」というグループ、「今あるものに追加していく」というグループに分類をする。共通点としては、「良好な居住環境の整備」をするための話し合いとなる。

参加者：「良好な居住環境の整備」とは、古いものを新しくするというより、全体的な周りの環境のことをイメージしていた。

参加者：街並み景観、公園、緑、水辺、バリアフリー、交通に関するまちづくりは、まち全体につながる内容である。居住環境、オフィス街、商業地域は地域によって異なり、個別的なことに近い。横串的なまちづくり、部分を指したまちづくりに分類できると思う。

事務局：これまで出てきた意見としては、「今あるものを新しくする」と「今あるものに追加していく」に分けるのが1つの方法。「全体の横串に係る話」と「全体の部分の話」に分けるのが、

もう1つの方法。このように整理できるかいかがか。

参加者：今回は基本計画の見直しに当たるが、これまでのようなゼロベースでの議論でよいのか。

事務局：今回は6か年計画の見直しであるが、新型コロナウイルスの影響などで社会情勢が大きく変化しているため、ゼロベースで今感じている課題から議論していただき構わない。提言に向けては、見直しなので、現行の基本計画をブラッシュアップする形で整理していただくことになる。

参加者：令和2年度の策定時は新型コロナウイルスの感染拡大前であったため、人口などの外部要因も関わってくると考えられ、そういった意味では全く異なった内容になっていくのではないか。今後の人口増減をどのように予想しているか説明していただきたい。

事務局：当時の人口は約26万人であったが、将来的に30万人に到達すると予測していた。新型コロナウイルス感染拡大の影響で人口は一旦減少に転じたが、また増加傾向に戻っている。区が行っている人口推計に関する資料を別途提供する。

事務局：これまでの話を整理すると、「再開発、耐震性、老朽化」という要素を含む、「居住環境」の категорияが1つ。「誰もがやさしいまちづくり」という categoriaが1つという分け方ができるかいかがか。

(異議なし)

事務局：それでは、「良好な居住環境の整備」「誰もが住みやすいまちづくり」「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」の3つをテーマとさせていただきます。

5 リーダー、サブリーダーの選出

グループ会議運営に当たってのグループリーダー、サブリーダーがメンバーの互選により選出された。リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

6 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに「良好な居住環境の整備」について、現状や課題に関する意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月24日（月）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階 911会議室

メンバー：8名（欠席2名）

事務局：対応部門関係課長6名（都市計画課長、住宅課長、建築課長、開発指導課長、再開発担当課長、品川駅周辺街づくり担当課長）

企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

1 テーマにおける現状と課題について

2 「良好な居住環境の整備」に関する意見交換

社会変化、港区の将来像、実現に向けた課題、施策の方向性、具体的な取組、参画と協働

3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議進行資料
2	港区まちづくりマスタープラン【概要版】
3	都市計画決定による街づくり地区位置図
3-2	虎ノ門・麻布台地区の街づくりについて
3-3	白金一丁目東部北地区の街づくりについて
4	品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン2020【概要版】
4-2	品川駅周辺地区（区域1～4）の街づくりについて
5	港区耐震改修促進計画（令和4年3月改定）の概要
5-2	港区における耐震化に関する支援策（令和3年4月現在）
参考資料1	第1回グループ会議 会議録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第2回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマにおける現状と課題について

事務局より、配布資料に基づき、テーマ「良好な居住環境の整備」における現状と課題について説明を行い、以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：資料3の都市計画決定地区は、事業中の地区や今後事業を行う地区が分かるように分類されているか。

事務局：事業が完了した地区や事業中の地区で分類はしていないが、分かるようにして別途資料を提供する。

参加者：品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドラインは東京都が策定し、実施主体はJR東日本だと思うが、みなとタウンフォーラムでの意見を反映することができるか。既に計画されているものに、どのように反映できるか。

事務局：ガイドラインを策定した東京都に意見を伝えることは可能。ガイドラインはこれまで、数年ごとに改定されている。

事務局：マスタープランは、各地域の特性を生かして伸ばしていくという大きな方向性を示すものである。最終的には、土地所有者が自分の財産・資産をどのように活用するかを決めるものではあるが、民間事業者と接点を持ち、区の考えに沿うように誘導を行っている。

参加者：マンションの耐震診断に対する助成限度額は、1棟あたりの金額か。

事務局：1棟あたりの金額である。非木造建築物の耐震改修工事を行う場合の助成限度額は、分譲マンションの場合7千万円、賃貸マンションの場合3千万円である。

参加者：検討テーマの中に、他グループの分野と被るものがある。第1から第9グループをどのように分けていて、どこの範囲まで検討するのかを整理してから意見出しをした方がよいのでは。

事務局：「良好な居住環境の整備」は全ての分野に関連しているため、明確に範囲を区切ることは難しい。居住環境の整備目線で考えると、他の分野と意見が異なるはずである。

参加者：第1グループで出た意見を他のグループで検討してもらうことはできるか。

事務局：議論する中で第1グループの検討範囲外の意見が出た場合、事務局から該当するグループに意見を共有させていただき、意見の取扱いについてはそのグループが判断することとなる。

2 「良好な居住環境の整備」に関する意見交換

参加者は2つのグループに分かれ、「良好な居住環境の整備」に関する社会変化や港区の将来像、実現に向けた課題、施策の方向性、具体的な取組、参画と協働について意見交換を行った。

項目ごとに思いつくことを付箋に書き、ホワイトボードに貼りながら各々が考える内容を説明した後、各グループでの議論内容を発表し合い、共有した。

○社会変化、港区の将来像について

■グループ①

事務局：社会変化については、道路のインフラ整備が東京 2020 大会の終了に伴って今後維持できるかといった課題がある一方で、新たな道路整備が進む中で道路がポイントとなる。コロナ禍を経て今後マスクを取っていく社会になっていく。家族構成も変化していくことで、住宅もそれに合わせて変わっていく。将来像は、安全・安心な街、住みたいまち、綺麗なまち、日本に誇る世界に誇れるまちにしたい。そのためには、綺麗なまちを維持することが大事。行政に対しても住民が意見を伝えやすいと良いまちになる。

■グループ②

事務局：社会変化については、昼間人口はオフィスワーカーが訪れること、夜間人口は開発が進んで居住者が増えることにより、昼夜間の人口が増加するだろう。

参加者：将来像については、安心・安全なまちづくりや温暖化対策、災害時に逃げることでできる街づくりといった意見が出た。今の良い港区のイメージを残していくことも重要。

○施策の方向性について

■グループ①

参加者：空き家や建替えを促進するためにも、税金面でどうにもできないなど進められない悩みもある。建替えも含め、港区でルールを策定すれば進むのではないか。外国人も含めて様々な人が入ってきているため、住む人や働く人、訪れる人に分かるように看板の掲示などに取り組むことで、国際化にもつながると考えられる。

参加者：様々な人の意見を全て拾い上げることは難しいため、学生に施策を考えてもらうなど、違う観点で取り組むと政策の進め方が変わってくるのではないか。

■グループ②

参加者：住んでいるだけで住民が震災時の避難場所や耐震性が分かり、勉強できる。

参加者：再開発に意見が言えるようになる。

参加者：各地区がつながれば観光地として楽しむこともできるし、防犯にもつながる。

参加者：再開発におけるオフィスと住環境のバランスは住環境を悪くしないためにも必要。

参加者：それぞれのまちの特色を明確化すること。

参加者：震災対策と同じように温暖化も対策の方向性を考える必要がある。

参加者：ミサイルが落ちてきた時にどうするか、ハード面の整備も必要になってくる。

※時間の関係上、「実現に向けた課題」「具体的な取組」「参画と協働」については共有しなかった。

3 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに「誰もが住みやすいまちづくり（バリアフリー、障害者、訪れやすいまち）」について、現状や課題に関する意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

リーダーが第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月9日（水）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階 915会議室

メンバー：9名（欠席1名）

事務局：対応部門関係課長5名（都市計画課長、建築課長、開発指導課長、土木課長、地域交通課長）

企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

1 テーマにおける現状と課題について

2 「誰もが住みやすいまちづくり」に関する意見交換

社会変化、港区の将来像、実現に向けた課題、施策の方向性、具体的な取組、参画と協働

3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議進行資料
2	港区のバリアフリーのまちづくりの取組について
参考資料1	第2回グループ会議 会議録
参考資料2	「良好な居住環境の整備」に関するグループディスカッションの概要

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第3回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマにおける現状と課題について

事務局より、配布資料に基づき、テーマ「誰もが住みやすいまちづくり」における現状と課題について説明を行い、以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：障害者が要望を出すことができるシステムなどはあるか。

事務局：港区バリアフリー基本構想推進協議会（以下「推進協議会」という。）には、区民代表として、老人クラブ、視覚障害者、中途障害者、商店街、観光協会、子ども・子育てなどの代表が参加しており、ご意見やご要望を聞く機会がある。また、これらの方々と毎年まち歩きを行い、その中でもご意見やご要望、ご質問を受け付けている。

参加者：心のバリアフリーとは、具体的にどのようなものか。

事務局：障害者に対する差別が生じないための取組を区が発信し、様々な方が理解できるように普及啓発を行う。心のバリアフリーの取組事例として、各施設の受付で筆談ができるようにタブレットを用意して案内することや、道路上の点字ブロックにシールを張り駐輪禁止を促すなどの取組がある。

参加者：心のバリアフリーの進捗率 92.9%はどのように測ったのか。

事務局：特定事業計画において公共交通事業者などが定める心のバリアフリー特定事業の数を基に算出している。

参加者：重点整備地区はどのように7箇所を設定したのか。地区ごとに特徴があるのか。

事務局：重点整備地区の要件として、高齢者や障害者等が利用する生活関連施設、駅、官公庁施設、福祉施設などが密集している場所を定めている。バリアフリー化の対象は港区内全域であり、重点整備地区は早期に対策を推進すべき場所として設定している。高輪ゲートウェイ駅周辺のように、新たに整備される場所ではバリアフリーのものが次々とできる特徴があるが、各重点整備地区における整備内容は基本的に変わらない。

参加者：都市公園の進捗率が他と比較して低いのはなぜか。

事務局：公園におけるバリアフリーの取組としては、出入口の段差改修や管理事務所での筆談対応などがある。段差改修は出入口だけの改修が難しく、大規模改修や再整備の際でないと実施できないことから、進捗率が低くなっている。

参加者：推進協議会やまち歩きに参加していない大学生など一般の方が要望を出す機会はないか。

事務局：推進協議会は一般の方が広く参加する場ではないため、隅々の方の意見まで吸い上げることはできていないが、学識経験者として日本大学の教授に協議会会長を担っていただいていることで、学生の意見を伺うことなどはしている。

参加者：心のバリアフリーという言葉は初めて聞いた。取組内容はどのようなものがあるか。

事務局：主なものとしては、ヘルプカードの配布や普及啓発、ヘルプカード対応職員の配置、広報みなどやポスターでの情報発信、ちいばすチャンネルでの放映、パンフレット作成による周知などを行っている。

2 「誰もが住みやすいまちづくり」に関する意見交換

参加者は2つのグループに分かれ、「誰もが住みやすいまちづくり」に関して、社会変化や港区の将来像、実現に向けた課題、具体的な取組、施策の方向性、参画と協働について意見交換を行った。

項目ごとに思いつくことを付箋に書き、ホワイトボードに貼りながら各々が考える内容を説明し、グループ内でディスカッションを行った。

3 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」について、現状や課題に関する意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

リーダーが第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月18日（金）18時30分～20時40分
会場：港区役所9階 911会議室
メンバー：4名（欠席6名）
事務局：対応部門関係課長3名（都市計画課長、土木課長、土木管理課長）
企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 テーマにおける現状と課題について
- 2 「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する意見交換
社会変化、港区の将来像、実現に向けた課題、具体的な取組、施策の方向性、参画と協働
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議進行資料
2	魅力ある景観・公園・緑・水辺づくりについて
3	港区の公園マップ
4	みどりの街づくり賞パンフレット
5	港区の景観協議の手引（建築物・工作物・その他編）
6	港区の景観協議の手引（屋外広告物編）
7	港区のみどりと水（実態調査概要版）
参考資料1	第3回グループ会議 会議録
参考資料2	「誰もが住みやすいまちづくり」に関するグループディスカッションの概要

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第4回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマにおける現状と課題について

事務局より、配布資料に基づき、テーマ「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」における現状と課題について説明を行い、以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：みどり率、緑被率、緑視率の違いは何か。

事務局：みどり率は運河や河川など宅地化されていない箇所を含む面積。緑被率は航空写真から判断した緑の面積であり、緑の量を過去と比較する際に最も適している。緑視率は歩行時の境界性を数値化したものであり、通りごとに計測している。

参加者：緑被率に壁面緑化は含まれるか。

事務局：水平投影面積で算定しているため含まれない。

参加者：公園、児童遊園、遊び場の違いは何か。

事務局：根拠法令が異なる。公園は、都市公園法に基づき管理を行うもので、さらに、港区では、港区立公園条例を定めて管理を行っている。児童遊園は、港区立児童遊園条例で管理を行い、児童の健全な遊び場を提供し、健康増進を図る目的で整備を行っている。遊び場は、区が所有していない土地を借りて、遊び場として開放している場所である。

参加者：道路の緑化はどのような優先順位で行われているか。

事務局：緑の増加は、人が住むまち・働くまちとして、効果的に潤いをもたらすと考える。道路と宅地の緑化は平行で一緒に行う必要がある。道路は、道路修繕の際に街路樹を植え、敷地は建替えの際に緑化し、まち全体の緑が増加することを目指している。

参加者：道路内の街路樹は区が植えているのか。

事務局：区道は区が、都道は都が、国道は国が植えている。街路樹の設置は、ベビーカーの通行等に支障がないように歩道幅員の制約をクリアしつつ、できる限り植える努力をしている。宅地の緑化は、条例で義務を課して整備していただいている。

参加者：道路によって街路樹の連続性がないのはなぜか。

事務局：歩道がある箇所では街路樹を植えることができないため、道路の規模・幅員によって街路樹の整備状況は変わる。

参加者：古川の水源はどこか。

事務局：今は水が枯れ、落合処理場から高度処理水を流している。古川の上流には渋谷川があり、水源は新宿御苑であったと聞く。

参加者：一之橋公園の地下には水を貯めるタンクがあると聞いたことがあるが本当か。

事務局：災害対策用として、古川の地下に調節池という直径7.5mの大きなトンネルがある。雨水により川が越水しないように設置された。五之橋の護岸に取水口があり、一之橋から排水する。平成11年の集中豪雨の際、この一時間近くで約130mmの雨が降り、古川の水が溢れたことがあり、その対策として、古川の下に調節池が設けられた。

参加者：新たに橋を架け、運河と運河をつなぐ計画はないのか。

事務局：新たに橋を架ける計画はない。明治時代に整備した埋立地と陸地を結ぶために橋が架けられた。

参加者：港南地区と芝浦地区の間の運河は橋と橋が離れているが、歩道の橋を架ける計画はないか。品川区の天王洲には歩いて渡れる橋があり、同様のものがあれば、浜松町までつながると思う。

事務局：歩行者用の橋についても新たに架ける計画はない。現状の護岸が新たな橋を受ける構造になっていない点や、船が通行できる高さを確保して橋を架けることが難しい点が理由である。

2 「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する意見交換

参加者は、「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関して、社会変化や港区の将来像、実現に向けた課題、具体的な取組、施策の方向性、参画と協働について意見交換を行った。

項目ごとに思いつくことを付箋に書き、ホワイトボードに貼りながら各々が考える内容を説明し、ディスカッションを行った。

3 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに「これまでの検討テーマ」について、ブラッシュアップできるよう意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

リーダーが第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月5日（月）18時30分～21時00分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：8名（欠席2名）

事務局：対応部門関係課長6名（都市計画課長、開発指導課長、再開発担当課長、品川駅周辺街づくり担当課長、建築課長、土木管理課長）

企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回提言に関する取組状況について
- 2 これまで議論した3テーマの全体確認
- 3 テーマ1「良好な居住環境の整備」のブラッシュアップ

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議進行資料
2	みなとタウンフォーラム提言に関する取組状況
3	テーマ1「良好な居住環境の整備」に関する議論内容のまとめ
4	テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」に関する議論内容のまとめ
5	テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する議論内容のまとめ
参考資料	第4回グループ会議 会議録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第5回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 前回提言に関する取組状況について

事務局より、配布資料に基づき、前回提言に関する取組状況について説明を行い、以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：「デジタルサイネージ等を活用した情報発信」について、区は具体的にどんな情報を発信しているのか。

事務局：区が発信する情報については、区長室が区民にとって有益性の高い情報や施策を発信している。民間事業者が工事現場の仮囲いに設置しているデジタルサイネージを活用してはどうかとの提言を受け、大規模開発計画の初期段階を指導する開発指導課が事業者に対して区の情報発信をしてもらうようお願いをしている。具体的には、区のたばこルール、ワクチン接種情報などを発信してもらっている。事例として、浜松町駅の世界貿易センタービルの工事の仮囲いを見ていただくと、タイミングが合えば情報が流れているのをご確認いただける。全ての事業者から賛同をいただける訳ではないが、有益性の高い情報発信を行うことができるよう事業者を指導している。

参加者：区の情報だけでなく、どういう建物が建つのかというコンセプトや建築者の思いなど、建築予定建物に関する情報を周りの住民が知れると良いと思い前回提言で提案した。

事務局：良い提案だと思うため、改めてそのような協力を依頼していきたい。

参加者：道路の緑化について、道路沿いに街路樹が植えられていても、木の高さが低く、日影にならない歩道がある。樹木の高さなどはどのような基準で決めているのか。

事務局：街路樹を植えるためには歩道の幅員が必要となる。街路樹を植えることで木陰をつくることも目的の一つであるが、緑化という目的もある。これまで、2.5m以上の幅員があれば街路樹を植えて緑化するように進めてきたが、交通量の関係などにより植樹ができない場所もある。東西の道路では日が当たらないなど多様なケースがあることから、様々な目的をもって街路樹を植えており、一概に木陰をつくることだけが目的ではないことをご理解いただきたい。大門通りではハナミズキを植えていたが、成長が遅くなかなか大きくならないことから、よりボリュームがあり大きく育つシマトネリコという樹木に植え替えた。このように、木陰ができるよう樹種を見直すこともある。また、樹種は地元の方の要望を伺い選ぶことが多い。

参加者：様々な条件に合致する木を植えてほしい。どのような条件を満たすことが必要かを考えて木を選んで植えることが重要では。

事務局：住民の意見を伺って樹木を植えることもある。桜の設置を要望される方もいれば、横に伸びない樹種を要望される方などもあるため、地元の意見を尊重して整備している。

参加者：運河沿い緑地を全てつなげられない要因や課題は何か。

事務局：運河沿い緑地が接続できない理由として、運河沿い緑地の整備のために必要となる耐震護岸の整備が進まないことが挙げられる。耐震護岸は東京都港湾局が長期計画に基づいて整備しているため、順番を待たないと工事が進まない。また、運河を利用する船の運航事業

者との協議が難航することがある。さらに、運河沿い緑地には、両端及び概ね100mごとに防犯目的のための出入口を設ける必要があるが、出入口を設置するための用地の確保が困難である。民間の土地を借りられないなどの理由により、運河沿い緑地を開放できていない場合もある。

参加者：公園についてだが、ベンチを住民が寄付する取組は行っていないのか。

事務局：区は、東京都が実施している「思い出ベンチ」のような取組は行っていない。

2 これまで議論した3テーマの全体確認

参加者は、これまで議論した3テーマの内容を振り返り、意見が反映されているかなどの確認を行った。

(主な意見等)

事務局：「めざすべきまちの姿」と「踏まえるべき社会変化」は、テーマごとに設定するのでなく1つにまとめるべきという意見があったが、どのように進めるか。

参加者：テーマごとの設定で良い。将来像と課題、方向性、取組は一連であり、まとめるとテーマを3つに分けた意味がなくなってしまう。

参加者：街づくりとして全体に共通する部分もあるが、テーマごとに異なる視点もあり、全てを1つにまとめるのは難しい。

参加者：この時点でまとめることを議論するのは遅く、個別のテーマで議論する前段階で将来像と社会変化を大きく捉えるべきという主旨で申し上げた。テーマごとに議論したため、まとめられるものもあれば、そうでないものもある。

事務局：それでは、「めざすべきまちの姿」と「踏まえるべき社会変化」については、まとめられるものは提言書の巻頭の「提言に当たって」に反映し、個別の内容は当初の予定どおりテーマごとにまとめることとする。

3 テーマ1「良好な居住環境の整備」のブラッシュアップ

配布資料3をもとに、「良好な居住環境の整備」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

事務局：「めざすべきまちの姿」については、抽出したキーワードを事務局が文章化したものを皆さんに確認していただく形でよろしいか。また、「踏まえるべき社会変化」についても同様の扱いでよろしいか。

参加者：(一同賛成)

参加者：資料上の施策の方向性はどのように設定したのか。

事務局：皆さんのこれまでの意見を事務局が分類し、方向性としてまとめさせていただいた。

○きれいで安全・安心な街づくり

参加者：まず、実現に向けた課題について確認を進めていく。「区民の災害時の避難場所などの勉強が足りていない」は、有事の際にどうして良いか分からないという主旨、「ミサイルからの避難所として地下壕の設置が必要」は、今の施設で大丈夫かという主旨で良いか。

参加者：良い。

事務局：「昔の田町駅は汚かったように、街を良くするため綺麗にすることが必要」は、汚いところ

があるため綺麗にした方が良いということか。

参加者：昔は飲食店が多く治安が悪かった街も、今は綺麗になって安心でき、景観も良くなった。綺麗にすることで犯罪やトラブルが無くなり、安心して街を歩けるようになる。

事務局：「まちが綺麗すぎるためにコミュニティが育たない」は、どのような主旨か。

参加者：新橋や六本木の雑多な感じは、それで良いのではないかという意見。治安の不安はあるが、魅力の点では必要な部分でもある。

事務局：後に出てくる「バランスある魅力的な街づくり」に統合する。「固定資産税に関して港区独自のルールがなく、空き家が問題」は、どのような主旨か。

参加者：空き家があると、防犯・景観の点で問題があり、放置するのではなく取組を進める必要があるという意見。

事務局：景観についてはテーマ3に含まれるため、ここでは防犯の点を問題視していきたい。

参加者：コミュニティの話はどうするか。開発により街は綺麗になるが、相互共助できるコミュニティがなくなる。

事務局：「情報のアウトプット・インプット」で再開発が出てくるので、そちらで整理したい。続いて、具体的な取組を確認していく。

事務局：「橋や高速道路など耐震性を視覚化」「建築物ごとの耐震マップの作成」「災害や避難所に関するマップの作成」について、マップをつくとどのような効果がもたらされるか。

参加者：区民の災害等に関する勉強が足りていないことが課題。区民が能動的に勉強できるように、散歩の際に街に設置されたマップを見て気付きが増えると良い。区民が指摘し合うことで、マップが更新されていく仕組みがあると良い。

参加者：紙で配布しても使われないため、マップを街に設置するべき。

参加者：京都に行ったとき、災害の際に危険なエリアや災害時に起こしてほしい行動が示された災害時の集合場所のマップが設置されていた。区民も旅行者等も分かるように、災害時の避難場所を示したマップを学校以外の場所にも設置すべき。

参加者：耐震については、地震対策とミサイル対策は分けて考えるべきでは。

参加者：ミサイルが飛んできた場合、地下壕であれば大丈夫なのか。

参加者：地下鉄の駅など地下に逃げられるスペースに避難することになるのでは。

参加者：耐震については、地震対策とミサイル対策は分けて考えるべきでは。

参加者：核が落とされることを考えると地下に施設を整備すればいいという訳ではない。

参加者：ミサイルについても考えるようにという提言が落とし所か。

事務局：「まちの整備にあわせて清掃活動を実施」「美化の違反に対して厳しく対応」は防犯の観点のためこのまま残すが、参画と協働に入る部分もあるのではないか。

参加者：「美化の違反に対して厳しく対応」は具体的な取組とすべきだが、「まちの整備にあわせて清掃活動を実施」は参画と協働だと思う。

事務局：「街灯を増やしてライトアップを推進」は、治安の意味のためこのまま残す。「空き家や建替えに関する港区独自のルールを作成」もこのまま残す。

参加者：空き家については、買い手が壊すだけでなく、店舗にするなど立地条件を生かして再活用することで治安が良くなると思う。

○バランスある魅力的な街づくり

事務局：実現に向けた課題について、「喫煙所代わりとされるなど、あるべき姿から遠ざかっている公園が散見される」は、テーマ3と重複するがいかがか。

参加者：喫煙所がないために公園で喫煙されてしまっている。テーマ3に移動して構わない。

事務局：「オフィスと住居が集積しているため、バランスをどう取るか」は、今は調和されていないということで良いか。

参加者：今の再開発は昔と比べ変わってきている。オフィスと住居がウィンウィンとなるような、バランスのとれた開発を進めてほしい。この施策の課題としての記載で問題ない。

参加者：再開発されるエリアと再開発に含まれなかったエリアの両者の間にギャップが生まれ、コミュニケーションがなくなることで分断が生じてしまう。

事務局：オフィスと住居に関して問題視することは何か。

参加者：今の再開発で特に問題視すべき点はないが、オフィスや住居、保育園、病院などが、エリアの中でバランスの取れた再開発を今後も意識して進めていくべき。

事務局：具体的な取組について見ていく。各内容で伝えたいことはあるか。

参加者：「まちをつなげて散歩道を形成」はテーマ3に含めて良いのではないか。

参加者：まちをつなげることで区民の活動範囲が広がり、分断解消・健康増進につながるため、残して良いと思う。

事務局：「散歩や歴史に関するマップを作成」は、散歩をさらに有意義にする取組か。

参加者：そのとおり。紙での散歩マップはすでにあるが、あまり使われていないので、より活用されるように工夫を提案するべき。

参加者：観光協会だけでなく、5つの支所もそれぞれ作成しているため、ばらばらになっており、もう少し効率的な使われ方がされるようにすべき。

参加者：区民がマップのアイデアを出すと良い。

参加者：区民ボランティアを活用した取組ができないものか。

参加者：総合支所でもマップの作成や街歩きを企画しているが、参加者だけの取組になってしまっているので、もっと広げていく必要がある。

事務局：「再開発に公園など住環境改善を提案」について、意見はあるか。

参加者：再開発エリアにおいて、既存の町会とのつながりが必要。再開発されたエリアの町会は無くなったり、取り込まれてしまったりしているため、再開発区域内の町会と区域外の町会とがつながるような取組が必要。

参加者：マンション単位で町会に加入すると1票にしかならず、戸建てとの格差が生じることも課題である。事業者と住民と一緒に清掃活動をするなど、オフィスの1階を活動に活用している取組もある。

○情報のアウトプット・インプット

事務局：実現に向けた課題について、提言したい主旨と異なる記載はあるか。

参加者：「港区をどのようにより良いまちにするのか、意識の共通化が必要」については、綺麗が良いという人もいれば、雑多が良いという人もおり、方向性を決めたいという主旨であり課題ではない。

事務局：「再開発に住民の声が届いていない」の内容が先ほどと同様であれば、こちらも外させていただきます。

参加者：良い。

事務局：「協力を求める人としてたい人をマッチングするなど、区民が協力し合えるようなアナウンスが必要」は、協力を求める人と協力をしたい人がどちらもいるため、マッチングしたら良いのではという提案であり、これは残す。

「色々な人の要望に応える施設があり過ぎ、何を目指しているか分かりにくい」についてはいかがか。

参加者：港区は色々なものがそろっており、区が取組が充実しているために、何に注力しているのかがぼやけている。何でも取り組めてしまっているの、あえて記載しなくて良い。

事務局：「サインなどを訪問者も住民も楽しめるようにすれば愛着につながるため、まちの特色を明確化する」についてはいかがか。

参加者：京都では、まちづくりの取組や歩みを情報として街中に掲示しており、知る機会があることでまちづくりに関する住民の理解が深まる。「楽しめる」は取ってしまって良い。

参加者：「情報のアウトプット・インプット」というカテゴリー名にした理由は何か。

事務局：これまでのやり取りで、区民としては情報を知らない、行政としては情報発信がうまくできていないという意見を踏まえて設定させていただいた。

参加者：そうすると、課題の記載が不十分であると思うので、施策の方向性の「住んでいるだけで住民が災害やコミュニティづくり、再開発などを勉強できるようにする」は、課題に裏返して記載できるのではないか。住民が能動的に情報を取りに行く必要がある。

事務局：課題から再開発に関する内容が無くなったため、再開発に関する具体的な取組の扱いはどのようにするか。

参加者：「情報のアウトプット・インプット」は、住民同士の意思疎通と、行政と住民との意思疎通に分けて考えてはどうか。再開発について、それぞれの視点からできていないのであれば、意思疎通という観点から残して良いと思う。

事務局：その場合に、再開発という言葉が合わないように感じたが、その点はいかがか。

参加者：意思疎通ということであれば、建物の建替えもあると思うが、隣町との意思疎通もあり、再開発には限らないと思う。

参加者：再開発などを勉強できていないことを課題として記載するので、再開発という言葉があっても良いのでは。

事務局：取組の記載の抽象度が高いため、具体化した方が良いと思うがいかがか。

参加者：情報の受け取り方が様々であるということを考えて、紙や二次元コード、マップなど、誰もが活用できるような方法を考えてほしい。

参加者：テーマ2も同様の施策の方向性があるので、差別化した方が良い。抽象度が高いものはテーマ1、抽象度が低いものはテーマ2で良いのでは。

事務局：「インフラ整備」「景観・環境・多様性」の施策については、どうしても残したい点があれば言ってもらえ、無ければこの内容は取り扱わないこととする。

(閉会)

リーダーが第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月19日（月）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：9名（欠席1名）

事務局：対応部門関係課長6名（都市計画課長、開発指導課長、住宅課長、土木課長、地域交通課長）

企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者3名

■次第

（開会）

1 テーマ1「良好な居住環境の整備」の振り返り

2 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」のブラッシュアップ

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議進行資料
2	テーマ1「良好な居住環境の整備」に関する議論内容のまとめ
3	テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」に関する議論内容のまとめ
4	テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する議論内容のまとめ
参考資料1	第5回グループ会議 会議録
参考資料2	提言に関する取組状況（質問事項と回答）

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第6回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマ1「良好な居住環境の整備」の振り返り

事務局より、前回のテーマ1「良好な居住環境の整備」について振り返りを行った後、参加者は以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：インフラ整備の項目について、予算に対応する計画が適切に行われている間は問題ないが、オリンピックなどの突発的なイベントで整備したインフラは、今後適切に維持されない恐れがあり、しっかりとフォローしないと劣化する。インフラ設備に対するチェック機能の強化や見える化をできると良い。不測の事態が起きてから修繕の順序等を考えるのではなく、港区内のどのインフラをいつ修繕するのか、あらかじめ尺度を定めておくとうち切りやすい。

事務局：頂いたご意見は非常に大事なものと受け止めている。区は、港区公共施設マネジメント計画を平成28年度に策定し、道路・公園・建物に関しては、つくった時期から何年サイクルで修理が必要か、予防保全計画を作成して取り組んでいる。壊れる前に予防的に修繕を行うようにし、修繕費用の時期が重ならないよう、負担の多い年と少ない年を整えて平準化を図っている。

参加者：提言に載せなくても大丈夫か。

事務局：お話いただいた問題意識で予防保全計画を作成しているので、安心していただいて問題ない。

事務局：テーマ1について、この資料を基に提言の形に整えてご提示させていただく。

2 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」のブラッシュアップ

配布資料3をもとに、「誰もが住みやすいまちづくり」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

○障害者が安心して暮らせるまちづくり

事務局：まず、実現に向けた課題について確認を行う。「歩きながらスマホを見ており、障害者など困っている人や街の魅力に気付かない」は、障害者への配慮とまちの魅力の認知、どちらの主旨か。意見がないようであれば、障害者への配慮の主旨とさせていただきます。「エレベーターの利用のしやすさや道案内などデジタルを活用して支援の充実が必要」の「エレベーターの利用のしやすさ」とはどのような意味か。

参加者：エレベーターの配置によっては、車椅子の方が利用しにくい場面があるため、デジタルを活用して配置を分かりやすくするという意味。

参加者：駅で重い荷物を持っている場合なども想定されるため、障害者に限った話ではない。

事務局：「車椅子や白杖を持った方などに対する知識がない」は、知識がないとどのようなことが課題となるか。

参加者：知識がないから、相手が何に困っていてどのような悩みを抱えているか分からない。

事務局：続いて、具体的な取組について確認を行う。

事務局：「信号待ちや坂道が多い問題を解決するため、ペDESTリアンデッキを充実する」は、駅周辺のイメージか。

参加者：駅周辺に限らず、交通量の多い場所は信号待ちで歩行者が滞留する。デッキによる通行ができれば、ベビーカーを押す人や歩くスピードが遅い人が横断時に焦る必要がなくなり、住みやすい街につながるのではないか。

事務局：「エレベーターの利用時間を拡大する」は、どのような意味か。

参加者：駅と併設されている建物、坂道の近くにある建物において、公共的な目的で設置されたエレベーターがあるが、利用時間が限られている。24時間利用可能ではなくても、今よりも長く利用できるようになると良い。区が支援や誘導をできないか。

事務局：「障害者の区内移動はタクシーを無料化する」は、どのような意味か。

参加者：道路のバリアフリー改修に莫大なお金がかかるのであれば、むしろそこを通らなくても良いように、障害者に対してタクシーの区内移動を無料化した方が、少ない予算で済むのではないか。

事務局：「ヘルプが必要な方向けに携帯の技術で歩きやすい仕組みをつくるなど、役立つ機能を充実する」は抽象的だが、具体的な問題意識はあるか。

参加者：グーグルドライブは、車で出掛ける際に車種を入力すると、通行できる道を示してくれる。障害者の方が通れない道が分かるように案内ができるようになると良い。

参加者：近道だけど階段がある。遠回りだけど階段がないなどの選択ができると良い。

参加者：障害者が道の通行のしやすさに関する情報を入力し、共有できるアプリが厚生労働省のHPに掲載されている。区で独自の取組を行うのは大変であるため、官民共同での取組ができると良い。

事務局：「QRコード付き点字ブロックを区内に広げていく」は、どのような意味か。

参加者：東京メトロの駅で、点字ブロックの一部に音声案内を行うQRコードが添付されている。この取組を区内全体に広められると良い。

事務局：実現に向けた課題と具体的な取組でマッチしていない箇所があるので議論したい。明らかに対応していないものはあるか。

参加者：具体的な取組の「ヘルプが必要な方向けに携帯の技術で歩きやすい仕組みをつくるなど、役立つ機能を充実する」、「QRコード付き点字ブロックを区内に広げていく」に対応する課題がない。

事務局：実現に向けた課題の最後は、「ハンディキャップに応じた対応について新しい技術が生かされていない」とすれば、先程の取組内容に対応するのではないか。

参加者：障害者という言葉よりもハンディキャップの方が適切ではないか。

事務局：提言書の中では、ハンディキャップで統一させていただく。

○子育て家庭を支えるまちづくり

事務局：まず、実現に向けた課題について確認を行う。

事務局：「妊婦はちいばすに乗るのが大変」は、どのような意味か。

参加者：妊婦ではなくベビーカーに対する内容であり、乗る時に段差があり大変という意味。

事務局：ちいばすはノンステップ仕様になっている。ベビーカーは中扉から乗っていただく運用をしており、運転手に言えばスロープを設置することができる。

参加者：対応できているのであれば、提言から外してもらって良い。また、取組の「妊婦の区内移動はタクシー無料化」も外してもらってよい。

事務局：「子育ての情報を自ら取りに行かないといけなく、後から知ることが多い」は、どのような意味か。

参加者：図書館等の掲示板を見るなど、子育ての情報を積極的に取りにいっているが、申し込みが終わっていたりするなど、後から情報を知ることが多い。

事務局：続いて、具体的な取組について確認を行う。

事務局：「家族向けの大きいユニットの整備など、住む人に合わせた住宅開発」は、どのような意味か。

参加者：独身や働いている人、家族など、家族構成が変わったとしても長く住めるような住居の整備が必要という意味。

事務局：「客席内でおむつ替えをしてもよい飲食店のステッカーを掲出」は、どのような意味か。

参加者：飲食店のトイレは狭い場合が多く、おむつ替えをできる飲食店があると良い。

事務局：「10分歩くと休憩できる場づくり」は、どのような意味か。

参加者：10分以内におむつ替えや休むことができる場所があると良いという意味。赤ちゃんが泣いたときの対応と親の休憩の両方の意味を含んでいる。

事務局：子育て家庭を支えるまちづくりの取組としているため、子ども連れの視点から捉える。一般の方の視点も必要であれば、公園やまちづくりのテーマに入れていく。

事務局：「お見合いパーティーの開催や子育て世代に手厚くするなど、港区に住む人を集める取組を進める」は、どのような意味か。

参加者：人口減少の原因は結婚する人が少ないことであり、解消が必要。区内在住・在勤者に対してお見合いの機会を創出して、最終的に港区の人口を増やせるとよい。

事務局：人口を増やすことが主旨であれば、人口の話が後で出てくるので、子育てからは外させていただきます。

事務局：「子育てや学校教育の情報を受動的に受け取れる仕組づくり」は、どのような意味か。

参加者：先程の話と同じで、どこかに行かなくても情報を得られると良いという意味。

事務局：「子育てが一段落した人がボランティアに参加しやすいような情報の提供」は、どのような意味か。

参加者：子育て経験のある人など、ボランティアをしたいと思う人が周りに多くいるが、何をしたら良いか分からず、行動につながっていない。

事務局：課題と取組を対比して過不足はないか。

参加者：「子育てや学校教育の情報を受動的に受け取れる仕組づくり」は、子育てや学校教育に限らず、その人に適した情報が受け取れるという捉え方ができるのではないかと。他のテーマにも関連する共通事項だと思う。

事務局：「家族向けの大きいユニットの整備など、住む人に合わせた住宅開発」の取組に対応する課題が出ていないので、人口増加の話と結びつけたほうが整理できると思われる。ボランティアについても課題がないので、「ボランティアで手伝いたい人はいるが、どうしていいかわからない」という課題を追記させていただく。項目がたくさんあると、提言を見た人もどれが一番大事かわかりにくいので、絞っていきたい。特に解決したい問題は何か。

参加者：「子育ての情報を自ら取りに行かないといけなく、後から知ることが多い」を解決したい。

参加者：客席内でおむつ替えをしても良いとは、どのような意味か。トイレ以外の場所も含むのか。

参加者：トイレに限らず、店内のどこかでおむつ替えができれば良い。

事務局：それでは客席ではなく、店内に変えさせていただく。

参加者：ボランティアに関して、港区をもっと良くしたいと思っている方にするなど、対象を限定しなくても良いと思う。

参加者：「女性や子育てをする人が気軽に休める場所」は、女性に特定しなくても良いのではないか。

事務局：時勢を考え、女性の記載を削除する。

参加者：「気軽に休める場所」について、対象を絞らず、「誰もが」という主旨で良いのでは。

情報については、キーワードを入れると出てくるアプリやチャット形式でのやり取りができると良い。

参加者：「子育てや学校教育の情報を受動的に受け取れる仕組づくり」は、そのまま施策の方向性になるのではないか。この部分に対して、具体的な取組が無くなってしまう。

参加者：障害者に対して手を差し伸べる施設はあるか。既存の施設に紐づけて何か提言できないか。

参加者：子育てや障害者のソフトに関する話は、他のグループとの調整になるか。

事務局：タクシー券の配布など、福祉的な要素は、街づくり部門での提言はできない。ただ、主旨は提言に入れさせていただく。どうしても難しいものは、他の分野に共有させていただく。

参加者：管轄の児童館に行けば子育ての情報を得られるなど、居住地域ごとに情報の結びつきがあるといい。

○心のバリアフリーの推進

事務局：まず、実現に向けた課題について確認を行う。「障害者自身が利用しやすいように心理的負担を取り除くことが必要」は、どのような意味か。意見がなければ一旦保留とさせていただく。「障害者に関する周知ができておらず、障害者の悩みを理解できず危機感なく生活している」は、「障害者が安心して暮らせるまちづくり」であった意見と同じか。同じであれば外させていただく。

参加者：同じである。

事務局：「障害者に対し、親切心からの声掛けが難しい」は、このまま残させていただく。

事務局：「ベビーカーでバスに乗れるようになったが、ベビーカーを邪魔に感じる人もいる」は、どのような意味か。周囲の理解がないと難しいという意味か。

参加者：ベビーカーのサイズによっては大きく邪魔と感じる人もいる。一方で、ベビーカーと乗り入れる人は、バスの中での置く場所で困惑することがある。

事務局：これは双方のマナーという意味で整理させていただく。

事務局：「子どもを連れてまちに出ると、周りからの視線を常に気にしなければならず、負担になっている」と「バリアフリーを活用する人も含めて、マナー思いやりの教育が必要」も合わせて、マナーへの問題的提起とさせていただく。

事務局：続いて、具体的な取組について確認を行う。「子どもが泣いてもOKリボンを一般の人が付ける」についてだが、OKリボンの取組は実際に行われているのか。

事務局：京都市では「Weラブ赤ちゃんプロジェクト」でシールを用いた事例がある。「駐車禁止の取り締まりを行う人が巡回しているように、困ったことがあったら聞け、助けてくれる環境をつくる」は、どのような意味か。

参加者：誰か一人でも理解を示してくれるだけで助かる。障害者の手助けをしている人など、あの

人に聞けばよく教えてくれるということが分かるようになると良い。

事務局：「バリアフリーの取組を区内の学校や企業に情報発信する」は、どのような意味か。心のバリアフリーということであれば、「心のバリアフリーブックを作成する」と括ることができると思うがどうか。

参加者：心のバリアフリーだけでなく、施設の紹介など、ハンディキャップがある人をユーザーとした場合、ユーザーだけでなく、そうでない人にも周知した方が良いのではないかと考えている。手助けが必要な時を分かっているならば、手を差し伸べることができるが、そうでないと見逃してしまうこともある。

事務局：残っている施策「情報のアウトプット・インプット」と「人口増加・財政負担増加への対応」を見ていただくと、どちらも抽象的な大きい話になっている。この中で提言に入れたものはあるか。あるのであれば、最初の3つの施策に加えていきたい。

参加者：グーグルマップに区民の情報を入れる取組を行いたい。

参加者：ラボのような場作りを実施したい。

事務局：この2つの入れ方について、3つの施策に入れるべきか、別の柱とすべきか。

参加者：3つに共通する切り口としたい。

参加者：グーグルマップという特定の名前を出して問題ないか。

事務局：会社などの個別名称は出すことが難しいため、記載内容は事務局で調整する。

事務局：3つに共通する切り口として進めていきたい。この内容は参画と協働にも通じるため、参画と協働での提言として良いか。

参加者：問題ない。

(閉会)

リーダーが第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和5年1月16日（月）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階 913会議室

メンバー：7名（欠席3名）

事務局：対応部門関係課長4名（都市計画課長、開発指導課長、土木管理課長、土木課長）
企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」の振り返り
- 2 テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」のブラッシュアップ

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議進行資料
2	テーマ1「良好な居住環境の整備」に関する議論内容のまとめ
3	テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」に関する議論内容のまとめ
4	テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」に関する議論内容のまとめ
参考資料	第6回グループ会議 会議録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第7回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」の振り返り

事務局より、前回のテーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」について整理事項を説明した後、参加者は以下のような質疑応答を行った。

(主な意見等)

参加者：ハンディキャップという言葉はどのような定義で用いているか。障害者という意味か。

事務局：障害者という意味で表現している。

参加者：高齢者をハンディキャップのある方と表現するのか。

事務局：高齢者の中にハンディキャップのある方はいるが、高齢者のみを示すわけではない。

参加者：ハンディキャップという言葉は、視力や動作が衰えてきた方なども広い意味で含むことで、対象が広がるのではないか。また、聞き手の印象もソフトになるのではないか。

参加者：「障害者が安心して暮らせるまちづくり」は、ハンディキャップをある方に対象を広げるということか。

事務局：前回の議論の中で、障害者の「害」は印象が悪いという意見があり、ハンディキャップという言葉を使うこととなった。そのため、対象を幅広く捉えようという主旨ではない。障害者福祉課に確認したところ、区は、国が法律等で「障害者」という言葉を使用していることから準用しているとのことで、当事者やその家族からは、本人にとっては「害」になっているため平仮名を使う必要はない、個人ではなく社会的な問題が障害となっているのでは等の意見があったと伺っている。

2 テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」のブラッシュアップ

配布資料4をもとに、「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

○緑道や運河でつながる街づくり

事務局：まず、実現に向けた課題について確認を行う。2点目から5点目までは地区に限定した課題となっている。地区を限定した提言とするかの確認をしたい。

参加者：「麻布地区から水辺までのアクセスが悪い」は、JRの線路を跨ぐ東西の移動が困難という主旨で発言したため、麻布地区に限定する必要はない。

事務局：「港南側は地下鉄がなく、アクセスが悪い」は、つながることで交流が生まれるという主旨だとすると、交通手段を地下鉄に限定する必要があるか。

参加者：各メンバーが港南側へのアクセスを不便に感じていることから出た意見のため、地下鉄に限定せず、効率良く行けるといった表現に変更しても構わない。

参加者：不便な所には、ちいばすが通っているのではないか。

参加者：ちいばすはJRの線路を越えて運行しているか。

参加者：田町駅、品川駅ともJR線の東西に乗り場はあるが、港南エリアへの直通運行は行ってい

ないため乗り換えが必要だったと思う。

参加者：ちいばすは地区内での限定的な移動手段であり、解決手段にはならないと感じる。各地区にはそれぞれ特徴があるので、課題の文章から地区という表現を消さなくても良いと思う。

事務局：東西の移動、港区内の各地区間を跨る移動、特定の場所での移動、3つの観点から課題を整理できるのではないか。

参加者：東西の移動、港区内の各地区間を跨る移動が課題と捉えている。

参加者：港南側まで直通する都営バスがあると良いと思う。ちいばすは細かい所を運行しているため、急いでいる時には使いにくい。

事務局：文面の例としては「区内の移動はしづらく、ちいばすを含め公共交通機関が地区や東西を横断していない」などが考えられる。

参加者：ここでいう東西はJRの線路による分断の話をしている。それぞれの地区のつながりは別の話ため、分けて考えた方が良いのではないか。

事務局：では、課題として、「JRの線路による東西の分断」「地区間のつながり」から整理する。「計画的に、住民のつながりを生かしながら連続性のある歩道整備が必要」は、抽象的ではあるが、課題として成立しているのでこのままとする。「街路樹を植えられるように無電柱化が必要」は、無電柱化が焦点ではなく、街路樹のある道にして欲しいという主旨で良いか。

参加者：街路樹の整備のためには無電柱化が必要であるため、無電柱化の記載は将来像と課題をセットにすれば良いのではないか。

参加者：無電柱化の進捗率はどのくらいか。

事務局：港区管理の道路は220kmあり、そのうち30%は無電柱化を完了している。無電柱化を行うためには、電柱の上にある変圧器を道路上に設置しなければならないという物理的な制約がある。また、歩道の下には他のガス管、水道管などのインフラが埋まっているため、広い歩道でないと電線を地中化するスペースがない。そのため、現状の技術では、概ね200年かかることになる。

参加者：30%を無電柱化するまで100年くらいかかったのか。

事務局：そうではない。これまで実施した広い道路や歩道がある場所は無電柱化を行いやすかったが、今後、無電柱化を実施する場所は狭い道路で時間を要する。

参加者：住宅地の中の狭い道路は、港区が管理している道か。

事務局：港区が管理している道路と私道がある。私道でなければ港区が管理している。

参加者：無電柱化について、どの地区の進捗率が低いか。

事務局：白金、麻布、赤坂、青山など、細街路が多い住宅地内での進捗率が低い。芝浦港南地区は道路が広いので、無電柱化が進んでいる。

事務局：課題をどのように整理するか。街路樹が少ないことを課題とするか、それとも、電柱が支障となり街路樹が植えられないことを課題とするか。

参加者：街の道路に緑を増やすという意見になるよう整理できれば良い。

参加者：景観の問題もある。日本は電柱が非常に多く見た目が悪い。

事務局：「レンガ街みたいに昔の建物を活用するなど、人の移動を促す工夫が必要」「歴史的なもの、水辺、近代的なもの、商業エリアをつなげることが必要」は、課題ではなく、何かを実現するための具体的な取組事項ではないか。

参加者：人の移動がなされていない点が課題ではないか。

参加者：横浜のレンガ街などを例に考えたが、港区内で具体的な場所のイメージはない。お化けトンネルや、新橋駅付近の高架下でできるかと言われると難しい。

参加者：麻布台にあった通信省の旧庁舎は立派だったが、再開発で取り壊されてしまった。

参加者：「人の移動を促す工夫がされていない」という課題で良いと思う。

事務局：人の移動を促す工夫とは具体的にどのようなことを指すのか。

参加者：観光、住民の散歩でも意味は同じになると思う。

事務局：「歴史的なもの、水辺、近代的なもの、商業エリアをつなげることが必要」は、「人の移動を促す工夫がなされていない」を課題とすることでまとめられる。続いて、具体的な取組について確認を行う。「線路沿いの開発で、運河や線路による東西の分断を解消し、魅力をつなげる」において、運河の記載は必要か。また、「浜松町から品川まで緑の歩道を運河に沿って整備し、魅力をつくる」は、浜松町から品川と場所を限定するか。

参加者：運河沿いに緑の歩道を整備するという表現であれば良い。

参加者：粒度を大きくするとシンプルな提案になってしまうため、具体的である方が良い。受け取る側がどう捉えるか分からなくなってしまう。

参加者：品川から田町までデッキでつながる話もある。汐留と浜松町もデッキでつながっている。浜松町から品川までとしているのは、田町と品川、新橋と浜松町はつながっているが、浜松町と田町の間はまだつながっていないという主旨だと思う。緑の歩道はKK線の緑道化にもつながっている。

参加者：運河沿いの歩道とデッキが繋がれば良いと思う。これにより、東西の分断の解消にもなると思う。

事務局：運河沿いの歩道とデッキがつながることで人の行き来が増えるという表現で、具体的な取組とさせていただきます。「まちに行きたくなる魅力を点在させる」については、先程の歴史的なものをつなげる必要があるとした課題と関連すると思う。抽象的な記載なので整理したい。

参加者：点在しているものをつなげようということと、新たに点在させようということでは主旨が異なるのではないかと。

参加者：つながりを生むために魅力的な場所を点在させてはどうかという議論であった。点在していれば、必然的に人の流れが生まれるということではないかと。

参加者：まだ足りないからつくろうということであろう。

参加者：ドッグランなど新たなにぎわいの場所をつくれれば良いと提案した。

参加者：港南の運河沿いにレストランなどをつくることで人が集まるという議論ではなかったか。

事務局：運河沿いレストランなど、新しい魅力を点在させるという視点でまとめる。

事務局：「日陰のできる植樹を推進する」とは、どのような主旨か。

参加者：太陽の高さ、位置を計算して道路に緑を植樹して欲しいという意味。

事務局：「東西を行き来する都バスの路線整備や名所めぐりのバス運行を行う」は、交通手段として提案するか確認したい。

参加者：ちいばすを通すことはできないのか。ちいばすの運行ルートに制約はあるのか。

事務局：ちいばすは地域交通、都営バスは広域交通の位置付けとなっている。ちいばすは走行する延長が10km前後と決まっており、広域交通を補完する福祉のバスという位置付けで、主に妊産婦や高齢者のためのバスである。そのため、赤坂から芝浦港南までを走行することはできない。

参加者：BRTや民間の会社が委託しているバス事業に区は関わっているか。

事務局：BRTは広域交通になるため、東京都の事業になる。虎ノ門から臨海部に対しての交通機能の位置付けとなる。

参加者：田町からレインボーブリッジ側のオフィスに向かうバスはどうか。

事務局：あくまでも企業の送迎バスのため、公共交通機関ではない。

参加者：品川や田町からお台場に向かうバスは何か。

事務局：レインボーバスはお台場までの移動を補完するバスである。ちいばすは陸内を走行しているが、レインボーバスはお台場と田町・品川間を走行するため、2つの事業所で分けている。

参加者：名前を分けている理由は何か。

事務局：運営会社が異なる点、レインボーバスは地域交通ではなく、シャトルバスの位置づけとなっている。ちいばすのスタートは、大江戸線の整備により都営バス路線が廃止されたことに伴い、幹線ルートに補完する目的で、平成16年に田町ルート・赤坂ルートが整備された。その後、各地域からちいばす整備の請願が出たことで、平成20年に各地区のルートを整備した。お台場への都営バスルートが廃止されたことで、お台場地域の公共交通がゆりかもめしかなくなり、地域からの要望があったため、レインボーバスをシャトルバスとして整備した。

参加者：シャトルバスを赤坂から芝浦まで運行することはできないのか。

事務局：広域交通と地域交通の役割分担で都営バスが行うものとなっている。

参加者：法律を変えないとできないかということか。

事務局：交通機能の役割分担が決まっているため、逸脱するとルール違反になってしまう。

事務局：東西の分断を歩道やペDESTリアンデッキで行き来できるようになると良いという議論があったが、交通手段として提言を行うかどうかの判断が必要となる。

参加者：ルールに合わないのであれば、必要があればルールを変えることを提言すれば良いのではないか。

参加者：半歩引いて、住民の意見を聞く機会を設けるという提案もあると思う。

参加者：これまでの議論としては、JRの線路で分断されていること、地区を跨ぐ移動がしづらいことが課題であったため、移動手段が必要ということを書くべきだと思う。

参加者：港区内だけのタクシーを検討したことはないのか。

事務局：タクシーはタクシー協会が運営を行っており、公共事業ではない。

参加者：タクシーは公共交通ではないのか。

事務局：公共交通の位置付けではあるが、行政が行うという役割になっていない。区が行うとすると車両や運転手の確保が必要となる。デマンド交通のように、地方ではできるが都心ではできないものもある。基本的に自治体を実施する場合は赤字となり、区民税で賄うこととなるため、採算性などを含めた総合的な検討が必要になる。港区は公共交通が充実しているが、補完できていない場所をちいばすで補っている。乗り継ぎについては、地域交通課が、乗車地点から降車地点までの検索ができ、料金も一括で支払える仕組みであるMa a Sの導入を検討している。

参加者：交通が不便であるという課題の解決方法として、Ma a Sの取組を行っているということか。

事務局：Ma a Sを実現するために検証を進めているが、ちいばすの事業者や都営バスの事業者、

鉄道事業者との連携が必要になる。1つの交通でどこにも行けるようにするのはなかなか難しいが、既にある交通をシームレスに乗り継ぎができ、早く目的地に到着できる仕組みづくりを港区として目指して欲しいという提言であれば、区はより重点を置いて進めることになる。

参加者：今の話を聞くと課題から外しても良いと思う。

参加者：M a a Sの取組を推進すべきという提言で良いのでは。

事務局：住民の意見を聞く機会を設けることについては、M a a Sの取組に含めることで良いか。

参加者：M a a Sの取組の推進と住民の聞く機会を設けることは分けて考えてほしい。

参加者：移動しにくいという課題は、どこからどこへの移動がしづらいかを定めないのであるからこういった議論になる。行きにくいのはどこかを明らかにして解決を図るしかないが、決めないのであれば、今の取組を推進すべきという提言になる。

参加者：バスに限定した話ではあるが、JRの線路による東西の分断をつなげるバスはなく、ちいばすは地区ごとに実施していることから、地区のつながりはない。そのため、JR東西の分断、地区がつながることができたら良いと考えている。

参加者：港区内の公共交通は、港南地区だけ不便だと思う。他の地域は鉄道やバスがある。日の出付近には綺麗な水辺があるのに行く機会がなくもったいない。現段階ではつながっておらず行きにくい。六本木ヒルズや青山などから乗り換えをしないで行けるようになると良い。

参加者：地区を跨ぐ交通は広域交通になるため、港区から東京都に提言して欲しいという言い方になるだろう。

参加者：それで良いと思う。何か言わないとそのままになってしまう。

参加者：M a a Sはいつ実現するのか。

事務局：各自治体が試行錯誤で取り組んでおり、東京都も勝どきから竹芝をダイレクトで結ぶ舟運の実証実験が行われていたり、竹芝ではタクシーやゆりかもめなどにシームレスな乗換ができるM a a Sの取組が行われたりしている。ベースとなるプラットフォームの運営が東京都なのか、港区なのか、民間事業者なのかはあるが、模索をしているところである。伊豆鉄道では観光地と合わせてタクシーを活用したM a a Sの取組を行っている。都心では公共交通の事業者が多いため、誰が中心となってプラットフォームをつくるかの課題があり、それぞれが研究を行っている。

事務局：今進めていることはしっかりと推進すべきという提言と、移動する手段の充実が必要であるという提言の2つで整理させていただく。

○港区ならではの景観を楽しめる街づくり

事務局：まず、実現に向けた課題について確認を行う。

参加者：港区全体の景観方針が必要とあるが、現状では用意がないのか。

事務局：平成21年に港区景観計画を策定しており、地区ごとの指針を示して指導している。

参加者：景観方針はどのようなものか。

事務局：港区の特徴ある景観をどのように形成していくかという全体の方針であり、景観上特徴的な12地区を定め、建築物の色、高さ、形態、デザインなどの基準を定めて誘導を行っている。港区では景観法に基づく届出の前に事前協議を義務付けており、商業系の地域では高さ25m以上又は延べ面積3,000㎡以上、住居系の地域では高さ15m以上又は延べ面積3,000㎡以上の建築物を協議の対象としている。港区では、定期的に景観アドバイザーに

お集まりいただき、協議の対象となった建築物について意見を伺い、景観に関する指導を行っている。

参加者：既に方針があるのであれば記載の必要はないと思う。

参加者：指針があることを住民が知らないことが問題なので、啓蒙することを提言したい。

事務局：SNSを用いて四半期ごとに景観に関する情報発信を行っている。ただ、多くの方に浸透していない現状がある。ご提案いただければ、SNSだけでなく新しい周知の仕組みづくりができると思う。

参加者：欠席者の意見でもあるので反映させたい。知る機会、発言する機会が相互にあるべきという主旨で提言としたい。

事務局：「地元が望むものと区の方向性が必ずしも一致していない」「人により景観に対する考えが異なるため、合意形成の仕方が難しい」は残す必要があるか。

参加者：残す必要はない。区からの啓蒙を強化すべきと提言した方が良いのでは。

参加者：努力しているのだろうが、情報が届いていない。

事務局：民間の建築物に対して、どのような根拠をもって高さを低くして欲しいなどの指導をするかが難しい。住民の意見を聞いた上で、建築主にどこまで実行させるかが景観行政において非常に難しいところ。地区ごとの景観計画の基準に対して建築主の意見を述べてもらうことになる。

参加者：まずは、そのようなことが難しいということを知ってもらう必要があると思う。

事務局：区は、説明会を行い、住民の意見を聞いた上で計画等を策定しようと心得ているが、周知の仕方にどうしても限界があり、どの分野でも関心のある方だけが来る状態になっている。そこを改めるため、SNSでの発信などを最近始めたところであり、少しずつ変わっていくと思っている。

事務局：景観計画は区民の方と約2年かけて案を作成した。景観計画の存在を知らない、内容を知らないという点については、もう少しやり方を考えなければならないと思っている。ただし、一つひとつの建築物に対して区民の意見を聞くようにして欲しいとの提言については、条例の規定上は不可能と思われる。

参加者：景観計画は、まちづくりマスタープランの下位計画になるのか。

事務局：そのとおり。

参加者：まちづくりマスタープランを啓蒙した上で、景観の内容も含んでいると伝えられると良い。部分的な景観の内容を啓蒙するよりも、広い意味での啓蒙を行った方が良い。

事務局：全体的な話として伝えるのであれば、提言書の前文で伝えることができるがどうか。

参加者：それが良い。

参加者：その場合、提言として受け止めてくれるのか。

事務局：提言書の前書きになるので、各提言の前提として捉える。

事務局：情報の啓蒙と発信する機会に関しては前文に盛り込みながら提言することとして進める。「存在が浮いているような不自然な植栽がある」は削除で良いか。

参加者：良い。

事務局：「利便性や効率化を優先して整えすぎ、自然を失っている」は景観の話として捉えるかどうか。

参加者：1つの方向性ではなく、様々な見方の景観を残すという主旨だと思う。景観を統一すべきという意見と、色々な景色の見方があるという意見が衝突してしまう。

事務局：記載を残すにあたっては、景観を整えすぎずというニュアンスのものとする。「ビルが多く、人も多い」は削除で良いか。

参加者：良い。

事務局：「港や運河の景観はやや殺風景」は、「港区にある歴史ある街並みや史跡があまり認知されていない」「魅力ある特性を活かしきれておらず、安らぎや愛着を感じにくい」に統合できるので、整理する。

参加者：テーマ1ではどのように扱っていたか。

事務局：空き家が景観を損なうという話が出ていた。

参加者：テーマ1は安全安心なまちづくりの観点であったので、テーマ3でも残すべき。

事務局：具体的な取組について確認を進める。「昭和を感じる界隈を保全する」は、「利便性や効率化を優先して整えすぎ、自然を失っている」に関連しているため、このままの意味合いで残す。最後の「効率一辺倒ではなく住む人の環境を大切にすると通ずるところになるが、統合して良いか。

参加者：「住む人の環境」は、景観を楽しめる街づくりの話ではないので、景観の話とはならないのではないか。

参加者：「住む人の環境」の中に景観を含むとも言えるのではないか。

参加者：景観のことを言っていないのであれば、テーマ1に統合して良いのではないか。

事務局：「神社仏閣などと連携した活動を実施する」の「活動」はどのようなものか。歴史ある街並みに含めることができると思うがいかがか。

参加者：神社仏閣では色々な祭事もあるので連携できればという意味で発言したので、景観の話には馴染まないと思う。

参加者：参画と協働の話ではないか。

事務局：では、参画と協働の内容とする。「歴史的なものを残す場所をつくる（コロナ対策を振り返るタイムカプセル、モニュメント、展示など）」は、新しくつくるという取組か。どの課題にリンクするか。

参加者：景観の話ではない。コロナを踏まえての話である。時間の経過とともに忘れ去られていくため、何か残せるものがあれば良いという話をした。

参加者：歴史ある街並みや史跡を味わえるということと、これから先に残していくということになるのでは。

事務局：「港区が目指す魅力ある景観等の将来的イメージ像を区民と共有し、意識向上を図る」は、前文の話とリンクするため削除してよいか。

参加者：具体的な記載として残して良いと思う。前文の一例を記載しているということになるので、良いか。

参加者：景観計画を啓蒙するという記載に変更したら良いのでは。

事務局：「空き家等をチェックできることから、再生・検討する」はこのままで良いか。

参加者：このままで良い。

参加者：電柱の記載はどうするか。

参加者：無電柱化するのであれば、信号通信の制御線の無電柱化も行って欲しい。飯倉交差点では線が残っており東京タワーの景観を損なっている。

事務局：地中化を始めたときは、事故等による復旧対応の面で警視庁が管理する信号通信の制御線は地中化できなかった。昔、地中化を行った場所では残っているが、最近地中化したもの

は信号通信の制御線も地中化されている。

参加者：無電柱化されているのに、現在、信号通信の制御線が残っている場所は、一昔前に地中化を行ったところということか。

事務局：現在、信号通信の制御線が残っている箇所も最終的には地中化されることになる。

参加者：提言では「古いところも改善を進める」としたい。東京タワー周辺など、景観スポットとなる場所は優先して地中化に取り組めると良い。

○リラックスして憩える公園づくり

事務局：実現に向けた課題について確認する。「公園維持のための住民一人ひとりの意識向上が必要」は、過ごしやすい公園を維持するため、喫煙マナーを含め住民一人ひとりの意識向上が必要という主旨で良いか。

参加者：取組の記載に合わせ、課題を意識が低いとしてはどうか。

参加者：公園を使うのは住民だけではなく観光客も使うので、利用者とするのはどうか。

事務局：課題はマナーの話として課題に残し、対象者は利用者としてほしい。

事務局：具体的な取組を見ていく。「防災機能を備えた公園内トイレを整備する」は防災分野の内容ではないか。

参加者：削除して良い。

事務局：他の取組の記載はこのまま残すこととする。

参加者：思い出ベンチについての議論があったが記載しなくて良いか。

事務局：区立公園のベンチは数が少ないため、寄付で設置するのではなく区で整備しているとの所管課長からの話だった。

○きれいでにぎわう水辺づくり

事務局：この施策は他の施策に統合できるのではないか。「運河沿いに水上レストランのような飲食店が増えると良い」は、先程のドッグランや水上レストランの議論につながる。

参加者：古川の水質改善が難しいことは理解したが、古川のイメージを向上させるために水上レストランを整備するとはどうか。

参加者：水辺のにぎわいは大事なので、施策から削除するのは反対である。

参加者：この施策は、港区ならでのポイントだと思う。

参加者：古川の水質改善に時間が掛かると聞いたが、目指すものとしては水質改善を言いたい。

参加者：目黒川のように桜を植えると良いと思う。

参加者：有栖川公園の水も汚いのではないか。

事務局：この池は水が入ってこない。水の循環をしているが、入れ替えることはないので汚れている。以前は定期的に浚渫していたが最近はまだ行っていないようである。

参加者：タイミングが無かったので伝えるが、SNSで発信する際、インフルエンサーを活用するのはどうか。港区公認のインフルエンサーがいると良いと思う。

(閉会)

リーダーが第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム 街づくりグループ（第1グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和5年1月30日（月）18時30分～21時30分

会場：港区役所9階 研修室

メンバー：9名（欠席1名）

事務局：対応部門関係課長9名（都市計画課長、住宅課長、建築課長、土木管理課長、開発指導課長、再開発担当課長、品川駅周辺街づくり担当課長、土木課長、地域交通課長）
企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 テーマ1「良好な居住環境の整備」提言内容の確認
- 2 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」提言内容の確認
- 3 テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」提言内容の確認

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第8回グループ会議進行資料
2	テーマ1「良好な居住環境の整備」提言書案
3	テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」提言書案
4	テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」提言書案
5	提言書発表スライド案
6	提言にあたって案
7	みなとタウンフォーラム提言式について
参考資料	第7回グループ会議 会議録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画
2	港区基本計画策定に向けた提言書

■会議要旨

(開会)

リーダーより、第8回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 テーマ3「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」の提言内容について

配布資料4をもとに、「魅力ある景観・公園・緑・水辺づくり」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

○将来像・社会変化

参加者：港区のことを区長に提言するので、運河の場所を具体的に示すべき。

参加者：「特色ある景観」を「特色ある美しい景観」、「景観や街並み」を「美しい景観や街並み」として欲しい。

参加者：人それぞれ捉え方が異なるため、修飾語を用いる場合は、具体的に何を示すか分かるようにして欲しい。修飾語の内容が課題や取組などにつながるようにすべき。

○実現に向けた課題

参加者：「河川や運河の親水化」について、「古川や運河の水質が悪く」と具体的に記載すべき。なるべく「など」の表記はすべきでない。

参加者：「住民の景観に対する理解の推進」の2点目にある「歴史」はどのような意味か。歴史的建造物を指すのか。

参加者：建物だけではなく、坂なども含めて広い意味で歴史という言葉で良いと思う。

○具体的な取組

参加者：「運河の水質改善とにぎわい創出」の水質改善に関して、古川の水量を増やす取組を行う予定はあるか。

事務局：水源からの水量が一定であるため、古川の水量を増やすことは困難な状況にある。

参加者：渋谷ストリームでは再生水を川に流しているようだが、同様な取組を周辺の開発で行う予定はないか。

事務局：港区内の古川沿いは、渋谷と違い住宅が立ち並ぶなど制限が多いため、同様な取組を現時点で行うことは難しい。

参加者：古川沿いのにぎわいづくりは、人に来てもらうことがゴールである。店舗を誘導することだけがゴールではないので、表現を工夫して欲しい。

事務局：人が訪れるようになることを追記する。

参加者：「運河の水質改善とにぎわい創出」の見出しの表現に河川が含まれていないので、文言の修正が必要ではないか。

事務局：「古川や運河の水質改善とにぎわい創出」とする。

参加者：古川の水量を増やすべきという意見は、施策の方向性の「きれいでにぎわう水辺づくり」に含められるのではないか。

参加者：水量を増やす取組が水質改善につながるので、記載しなくて構わない。

参加者：「自在に移動できる環境整備」の2点目は、「公共交通機関のルート検討」を「公共交通機関の区内の地域間をつなぐルート検討」と言葉を追加して欲しい。

参加者：「5地区間を移動できる」の方が良いのではないか。

事務局：ちいばすは各地区内を運行しているため、赤坂から高輪まで直行するルートの新設は難しい。そのため、乗換の拠点をいくつか設けている。乗換の利便性を向上して欲しいという提言であれば、取組につながる。

事務局：5地区間の移動を可能にする主旨を追記する。

参加者：ちいばすの乗り継ぎに割引は適用されるか。

事務局：無料で乗り継ぎができるルートも一部ある。

参加者：「自在に移動できる環境整備」の4点目で、マルシェなどレストラン以外の例示があるとにぎわいを想像しやすくなる。

参加者：「誰もがリラックスし、憩える公園整備」の3点目、D I Yについて違和感がある。いきなり公園づくりに参画するのはハードルが高いと思うため、まずはセミナーを開催することを目標とすべきではないか。

参加者：レストランやマルシェ以外に、プロジェクションマッピングもあると思う。

参加者：「自在に移動できる環境整備」の4点目と「運河の水質改善とにぎわい創出」の内容で重なる点があるため整理が必要。

参加者：水辺のにぎわいは、「運河の水質改善とにぎわい創出」にまとめて良いと思う。

参加者：レストランなどのにぎわい施設は港区内にたくさんある。ただ、古川や運河沿いには相対的ににぎわい施設が少ないと思う。

事務局：レストランなどのにぎわい施設の誘導は、水辺沿いに関する内容として整理する。

○参画と協働

参加者：主体者が企業や神社仏閣となっている。今回の提言に基づき区長が区民に発信することはできると思うが、企業や神社仏閣に対してはどのように伝わるか。

事務局：参画と協働の項目を設けている趣旨は、行政視点だけでなく区民視点を取り入れるためである。そのため、区がイベント等を行う際、企業や神社仏閣と一緒に取り組む視点を持つようにするものである。

参加者：行政から民間に対して、区民から意見を受けた形で対応できるようになる。その上で、民間は選択を行うことになる。

参加者：企業などの主体者に関する記載は、誘導するなどの表現に変えた方が良い。

事務局：表現は調整する。

○その他

参加者：前回、港区景観計画等の周知に努めるとの話だったが、提言に記載しなくて大丈夫か。

事務局：ご意見をいただき、港区まちづくりマスタープランをT w i t t e rで周知するよう準備を進めている。また、行政計画は一定の期間で見直しを行い、その時々々の社会状況に合わせていくこととしている。

参加者：具体的な取組の「街並みの保全と魅力ある景観の創出」の4点目にて、「港区が目指す魅力ある景観等の将来像を共有」と記載しており、ここで景観のビジョンや幅広い街づくりの内容を周知するという意味を含めている。

2 テーマ2「誰もが住みやすいまちづくり」の提言内容について

配布資料3をもとに、「誰もが住みやすいまちづくり」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

○将来像・社会変化

参加者：将来像の説明において、「誰もが住みやすいまちを実現」としている一方、「ハンディキャップのある人」「子育て世代」に焦点が当てられている。「誰もが住みやすいまちを実現する」を削除するか、「ハンディキャップのある人や子育て世帯などに焦点を当てつつ全ての人が安心して暮らせる」とした方が理解しやすいのでは。

参加者：テーマの「誰もが」を、「子育て世代・ハンディキャップのある人」に絞ってはどうか。

参加者：ハンディキャップのある人への配慮、ハンディキャップのない人の住みやすさの考慮をするという意味を含むため、「誰もが」は必要ではないか。

参加者：文章が長いので、「誰もが住みやすさを感じる」という表現として良いのでは。

<実現に向けた課題>

参加者：「ハンディキャップのある人への配慮」の1点目について、「歩きスマホをすることで」は削除して良いのではないか。

参加者：困っている人に気づかない原因は歩きスマホだけではない。

参加者：2点目の記載において、具体的な内容は取組の項目に移動して良いのではないか。車いすの人が、エレベーターの場所や道路の段差を把握しづらいことが課題だと思う。

参加者：車いすに限った内容とするのではなく、ベビーカーなども含むように抽象化すべき。

事務局：この提言の趣旨は、移動をしづらいということと、デジタル技術を活用して支援ができるのにしていない、不十分という点を伝えたいという理解で良いか。

参加者：両方とも伝えたい。

参加者：エレベーターに限らない話だと思う。移動に不自由がある人にデジタルを活用した案内ができるとう良い。

参加者：「必要な人に届く情報発信」は、国が掲げている Society5.0 の内容を盛り込んだほうが良い。

事務局：具体的な取組に書く方が適していると思うがどうか。

参加者：国の方針と合わせて進めていかなければならないという課題はあると思う。

事務局：「社会変化」に「IT化・DXの加速」の項目があるので、そちらに書くのはいかがか。

参加者：それで良い。

参加者：港区バリアフリー基本構想が区民に知られていないという課題を追記して欲しい。

<具体的な取組>

参加者：「情報発信の機会づくり」の1点目は、より具体的に記載して欲しい。修繕が必要なインフラのポイント、散歩が楽しくなる情報など、様々な情報をアップロードできるイメージが伝わるよう具体的にしたい。

参加者：「検討する」は「検討して導入する」として欲しい。

参加者：「導入できるように検討する」はどうか。

事務局：「検討する」は当然前向きな意味のため、導入するように検討するまで記載しなくても良いと思う。提言いただいた内容は新たな取組となるため、現実を考慮すると高い目標と考えている。

参加者：厚労省のホームページには車いすの団体が作ったアプリがあり、車いす使用者が自由に書

き込めるようになっている。

事務局：区のホームページに、他の団体が作った公共的な取組をリンクで貼ることはできると思う。

今回の提言は、区がプラットフォームを作成することになるので、管理上のハードルが高いと考えている。

参加者：産官学が協力して作成するでも良いと思う。

参加者：ウィキペディアのように、誰もが投稿できるイメージをしている。プラットフォームの作成は誰でも良いが、港区が旗振り役を行うのが良い。

参加者：第三者が作ったものに対して区がリンクを貼ると、責任の所在が不明確になる点を懸念する。

事務局：リンクを貼ることも考えられるが、リンク先と内容を確認し続ける必要がある。

参加者：区に限らず、東京都や国に働きかけるといえるのはどうか。港区に限らず他の区でも活用できる内容だと思う。

参加者：実現するのであれば構わない。

事務局：導入は二足飛びになるので、検討するということにしたい。

参加者：検討でも構わない。

参加者：「バリアフリーな環境整備」1点目のペDESTリアンデッキは、設置だけでなく改善も含むべき。地下鉄駅はいまだに階段がある。地下道を延伸するなど、開発を契機として整備、改善をすべきと白金ザ・スカイの開発を見ていて感じた。ペDESTリアンデッキの設置と改善により、階段でしかアクセスできない箇所解消が必要。迂回経路があったとしても最短に近い経路になるように改善すべき。

事務局：階段でしかアクセスできない箇所があることを課題とする場合、地下鉄駅に限定して良いか。

事務局：地下鉄駅などと記載するのは良いと思う。ただ、実際に改善を行えるのは周辺開発の際となる。

参加者：「情報発信の機会づくり」のオンラインマップについて確認だが、一時停止を守られない車がいて歩行者や自転車が怖い思いをした話など、何でもアップロードしていくということか。

参加者：段差の話など、意見が多い箇所から区が修繕を行っていくようになると良い。

参加者：安全に歩くためのページ、散歩している人ためのページなど、一つのアプリで階層を分けて表示できると良い。

参加者：色々な情報を一つのページに載せると分かりづらくなるため、ページを分けると良い。

参加者：まちのコンシェルジュについての提案の記載が漏れている。駐車監視員のように巡回するイメージが伝わらない。

事務局：趣旨を踏まえて、例示で示すなど改めて表現を検討する。

参加者：「情報発信の機会づくり」は、「機会」ではなく「仕組み」ではないか。

参加者：「子育てを支える環境整備」の1点目は「休憩できるような場所」に、徒歩10分圏内と追記したい。

参加者：「子育てをしている親子」だけでなく、一般の人でも利用できるようにしたい。

参加者：子育てに限定した話ではなかったと思うので、「心のバリアフリーの推進」に移動してはどうか。

参加者：「心のバリアフリーの推進」で確認したい。ステッカーの配布は、店舗に限る配布と議論し

ていたか。

参加者：店内でおむつ替えをできることを示すステッカーについては、店舗への配付を想定して議論していた。

参加者：以前、ステッカー配布の事例紹介があった。それは個人が身に着けるものではなく、店舗や乗り物に貼るものだったと思う。個人にステッカーを配布しようという話ではなかった。

参加者：「子育てを支える環境整備」の1点目で、おむつ替えに関する記載はスペース整備となっており、ステッカーの配付を追記してほしい。

事務局：紹介された事例は、個人があらかじめ携帯などに貼ったステッカーを電車などで親に見せることで、赤ちゃんが泣いても気にしないと伝えるものであった。店舗に貼るステッカーとは別の話だと思う。

参加者：そうであれば、個人に対するステッカーの配布が良い。

参加者：おむつ替えをしても良い飲食店のステッカーも取組としてあって良いと思う。

参加者：飲食店でおむつ替えができるスペースを整備することは区が行うことではない。

参加者：「休憩できるような場所の確保」は建物外のハードの話になるので、区に取り組んでもらいたい内容だが、飲食店内のおむつ替えスペースの整備は、ステッカーを区に貼ってもらうことで、利用者が安心して入店できるようになると良い。

参加者：衛生的に不快と思う人もいるという点からスペース整備の話になったのではないか。

事務局：「スペースの整備や、整備している店舗へのプロモーションのためのステッカー等の配布」とするのはどうか。

参加者：良いと思う。スペース整備をしていなくても、店舗側がおむつ替えをして良いと言うのであればステッカーを貼っても良いと思う。

事務局：「おむつ替えをできる店舗へのステッカーの配布」というニュアンスはいかがか。

参加者：その方が良いと思う。

○施策の方向性

参加者：「心のバリアフリーの推進」の、「ハンディキャップのある人や子育て世代をはじめ」は「ハンディキャップの有無に関わらず」とするのはどうか。

参加者：「ハンディキャップのある人が安心して暮らせるまちづくり」は、「ハンディキャップを感じさせない安心して暮らせるまちづくり」とした方が良いと思う。

参加者：「生活のしづらさを感じず」の表現はなくても良いのでは。

○参画と協働

参加者：港区バリアフリー推進協議会の街歩き点検に区民も精力的に参加と記載すべき。

3 テーマ1「良好な居住環境の整備」の提言内容について

配布資料2をもとに、「良好な居住環境の整備」について、以下のような整理を行った。

(主な意見等)

○将来像

参加者：「世界に誇れるまち」は、何を意味していたか。

参加者：港区に来ると日本の様々な魅力を感じられるという意味ではなかったか。

参加者：思いがあるということであれば、「世界に誇れるまち」という表現は残して良いと思う。

○実現に向けた課題

参加者：「まちの美観向上」の1点目、「雑多な」という表現はイメージが良くない。観光者の受けが良い、独自の街並みなどと修正するのが良い。

参加者：「住民同士や行政との意思疎通の円滑化」の、「協力してほしい区民と協力したい区民」は、サービスを要求する人とサービスを提供したい人という意味だと思うが、最初読んだとき、区が誰かに対して協力して欲しいと読んでしまった。

参加者：協力されたい人と協力したい人という表現が良いと思う。

○具体的な取組

参加者：「防災に関する情報の可視化」の「様々な防災の情報を発信し」は、どのように発信するかを記載すべき。

参加者：生活をしているだけで知識が付くという趣旨にしたいため、もう少し具体的に書きたい。

事務局：「日常的に情報を手に入れられる」という記載で表現している。

参加者：危険な箇所を示すことはハードルが高いため、逆に安全な箇所を示すほうが良いのでは。

参加者：日常的に情報を手に入れられるという表現より、生活をしているだけで知識が付くような防災情報の見える化という表現の方が良いと思う。

参加者：水深何メートルになるかを示す標識のように、意識せず目に入るイメージ。

参加者：防災マップで示す危険度を標識で設置するというのもあると思う。

参加者：具体的には絞れないと思うので、生活しているだけで身に付くというところを提言としたい。

参加者：電柱や歩道の色分けで危険度を把握できるようになると分かりやすい。

参加者：事故が多い交差点を真っ赤にするなどもあると思う。

参加者：港区は最近、道路に保育園の前であることを示すようになった。

事務局：キッズゾーンを区内に25か所設置している。保育園児が散歩するルートであることを道路に示し、自動車がスピードを落とすような仕組みとしている。また、狭い道路では、スピード抑制のハンプを設置している場所もある。

参加者：「情報発信の強化と意思疎通の場づくり」の2点目、「屋外の標識や看板を有効活用し」というのは、看板にスマホを掲げると情報が取得できるという意味か。

参加者：民間が運用しているデジタルサイネージがいたる所にあるので、そこで区の情報を発信して欲しいという意味。工事現場に設置されたものでは、建築される建物の情報などを発信するよう区から依頼してもらおう意味合いで以前話をした。その中にQRコードの話があっても良いと思う。

参加者：では、そのような趣旨に書き変えていただきたい。

参加者：コロナでどのように取り組んだか分かるように、資料室やタイムカプセル、モニュメントなどの話をどこかに入れたい。

事務局：前回、景観を楽しめるまちづくりの分野として整理したが、防災観点か景観観点かで意味合いが変わってくる。防災として、歴史的に経験したコロナの事実を後世にも残していこうという趣旨であればテーマ1で良いが、景観として歴史を語ることを忘れないということであればテーマ3に記載することとなる。

事務局：景観とは、風景や街並みをイメージするため、今までの議論を踏まえると、防災の観点で

残す方が馴染むと思う。

参加者：「バランスと調和のとれた住環境の形成」で、公園や広場の設置とあるが、ビル内の休憩所を追加できないか。

参加者：「情報発信の強化と意思疎通の場づくり」の1点目、「議論をできるような場」は「議論できるラボのような場」として欲しい。

事務局：テーマ2の具体的な取組「情報発信の機会づくり」の2点目にラボの記載を行っている。

参加者：他で記載があるのであれば、テーマ1では記載しなくて良い。

○参画と協働

参加者：「まちづくりへの参加」の「港区に対して何ができるか」は、「港区をより良くするために何ができるか」という表現にすべき。

4 その他

提言式に向けた今後の進め方を確認するとともに、メンバーからこれまでの活動について感想を共有した。

事務局：提言式は3月23日(木)に9階の大会議室で実施する。発表者1名を決めていただきたい。

提言書は本日の議論を踏まえ、事務局とリーダー、サブリーダーと調整し、最終版を皆様に共有し、そこで確定とさせていただきます。

リーダー：これまでの活動の感想と合わせて、提言に向けて、区長に特に伝えたい内容を1つ教えていただきたい。

参加者：街の美化に関する内容を提言したい。

参加者：安全、安心できれいな街づくりと古川の件を提言したい。

参加者：誰もが住みやすいづくりに関して提言したい。

参加者：良好な居住環境の整備を提言したい。具体的な内容はなかなか思い浮かばないが、もっと先の世代につながっていくと良い。

参加者：オンラインマップに関する内容を提言したい。

参加者：古川の件を提言したい。また、現在でも子育て世代に住みやすい街であるが、まだまだできることがあると思う。もっと多くの人に区を取組を知っていただきたい。

参加者：街づくりの機会を最大限に生かして、バリアフリーや防災に取り組んでいただきたい。

参加者：景観に関しては改善の余地があるので提言したい。また、日常生活で足りていないのはハザードマップの共有などであると感じたため、こちらも提言に入れていただきたい。今後こういう機会があるのであれば、参加者のダイバーシティがあっても良いと思う。

事務局：基本計画は区の最上位計画であり、地域の方々のお声を大切に、反映していきたいという思いからこのような機会を設けている。街づくり分野ということで、普段にない視点で活発な議論をいただき、良い内容のものが出来上がったと感じている。

参加者：発表者はグループの総意ということで、リーダーにお願いしたい。

参加者：メンバーが最後まで参加いただけたことが嬉しく、熱い想いをを持ったメンバーであったと思う。今回の場で得た様々な知識を基に何かしら区に恩返しができると思う。

(閉会)

リーダーが第8回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

